

履修コード	039551
科目名	G I S 実 習
担当者名	田 中 靖

**講義の到達目標(ねらい)** GISを用いて基本的な地図の作成や解析作業を行えるようになることを目的とする。地理学科では地理情報学系の科目として「地理情報論」を開講しているため、ここでは主に実習によりGISに関する知識と経験を積む。実習には主にArcGIS (ESRI)を使用するが、必要に応じて地理学科に導入されている他のGISソフトウェアなどについても扱う。なおこの実習は、社団法人日本地理学会の「GIS学術士」資格取得のために必要な科目である。

**講義の内容／授業スケジュール**  
 第1回：ArcGIS基礎知識  
 第2回～第4回：ベクトルデータの構造、世界地図の作成  
 第5回～第7回：ラベルの表示、分類シンボルの表示、レイヤ定義  
 第8回～第9回：投影変換、地理座標  
 第10回～第12回：空間検索・属性検索  
 第13回～第15回：ディゾルブ、バッファ、ジオプロセッシング  
 第16回～第18回：空間結合、フィールド演算、VBAスクリプト  
 第19回～第20回：データ作成、ジオリファレンス  
 第21回～第24回：ベクタ解析総合演習（主に都市を対象として）  
 第25回～第28回：ラスタ解析総合演習（主に地形を対象として）  
 第29回～第30回：総合演習・まとめ

**成績評価の方法** 授業に取り組む姿勢（40%）＋提出課題の質（60%）。定期試験は実施しない。

**教科書／テキスト** 指定しない。授業内に配布するプリントと、下に示す参考書を合わせて勉強し、授業に臨むこと。実習に用いるデータや教材は、全て授業用ホームページで公開する。

**参考書** 川崎昭如・吉田 聡(2006)『図解ArcGIS Part2 - GIS実践に向けてのステップアップ - 』古今書院  
 野上道男ほか(2001)『地理情報学入門』東京大学出版会  
 村山祐司・柴崎亮介(2008)『GISの理論』朝倉書店

**その他** コンピュータおよびGISソフトウェアのライセンス数に限りがあるので、受講者数を制限することがある。

**関連リンク** <http://www.int2.int.komazawa-u.ac.jp/~yasushi/GIS/>

履修コード	034401
科目名	ア ジ ア 地 誌
担当者名	江 口 卓 須 山 聡

**講義の到達目標(ねらい)** 朝鮮半島およびヒマラヤ地域の地誌について講義する。前期は須山が朝鮮半島を、後期は江口がヒマラヤ地域を担当する。

**講義の内容／授業スケジュール**  
 前期（須山）：それぞれの内容を1または2回で講義する。  
 1. 位置と自然環境  
 2. 都市と人口  
 3. 農業と農村  
 4. 製造業と地域開発  
 5. 巨大都市ソウル  
 6. 朝鮮半島のコロナルタウン  
 7. 韓国の都市群システム  
 8. 韓国の都市イメージ  
 9. 風水地理説  
 10. 韓国人のライフコース  
 11. 朝鮮民主主義人民共和国

後期（江口）：それぞれの内容を2または3回で講義する。

1. ヒマラヤとは
2. ヒマラヤの成り立ちとブータンヒマラヤの地形
3. モンスーンとブータンヒマラヤの気候
4. アジアの植生におけるヒマラヤの植生の位置づけ
5. ブータン王国の生活・文化と自然環境
6. ヒマラヤにおける環境問題

**準備学習** 前期：朝鮮半島についてはメディアを通じて真偽ないまざった情報が垂れ流されている。日頃、これらについて留意されたい。

**履修上の留意点** 前期：出席を厳格にとる。

**成績評価の方法** 前後期各50%のウエイトで評価する。前期は、前期終了時に授業内容に関するレポートを課す。後期は、レポート（40%）と出席を含む平常点（10%）で評価する。

**教科書／テキスト** 特に指定しない。

**参考書** 随時資料を配布する。授業内容を理解するには以下の書籍を参照するとよい。  
 前期：小倉紀蔵 1998. 『韓国は一個の哲学である—理と氣の社会システム—』講談社。  
 小倉紀蔵 2005. 『韓流インパクト—ルック 코리아 と日本の主体化—』講談社。  
 神谷浩夫・轟 博志編 2010. 『現代韓国の地理学』古今書院。  
 後期：今枝由郎 2008. 『ブータンに魅せられて』岩波新書。

履修コード	034501
科目名	アメリカ地誌
担当者名	菅野 峰明

講義の到達目標(ねらい)	アメリカ合衆国は広大な国であり、単一の地域として理解するのは困難である。この授業では、アメリカ合衆国は特色ある地域から成り立っているということを地誌学の方法で理解することが目的である。また、地域の特色あるいは地域性とはどのようなものかを理解し、それらの形成過程を把握する方法を習得すること。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：地誌学とは。アメリカ合衆国という国、第2～5回：北アメリカの自然環境、第6回：地域区分の方法、第7～8回：ニューイングランド、第9～10回メカロポリス、第11～12回：アパラチア山地、第13～16回南部地域、第17～18回中西部、第19～21回：グレートプレーンズ、第22～23回：ロッキー山脈地域、第24～25回：山間盆地地域、第26～27回太平洋岸沿岸地域、第28～29回：アラスカ・ハワイ、第30回：アメリカ合衆国の地域性のまとめ
準備学習	アメリカ合衆国に関するニュースは国内のどこの地域で起こっているかを常に地図で確認する習慣を身に付けて下さい。
履修上の留意点	授業には地図帳を持参して下さい(高校時代に使用したもので構いません)。アメリカで起こるニュースはどんな地域的背景で生じたかを調べようとする意欲をもって下さい。
成績評価の方法	学期末試験(5割)、課題(3割)、出席(2割)で評価します。
教科書／テキスト	教科書は指定しません。
参考書	(1) 矢ヶ崎典隆・斎藤 功・菅野峰明編著『増補版アメリカ大平原』古今書院、2006、3,500円 (2) 小塩和人・岸上伸啓編『朝倉世界地理講座13 アメリカ・カナダ』朝倉書店、2006、16,000円

履修コード	038501
科目名	応用地理学
担当者名	高木 正博

講義の到達目標(ねらい)	身近な「水」について、これまで系統立てて学ぶ機会は少なかったであろう。授業ではまず、水の特性を水文学の視点から学び、水循環の仕組みを理解してもらう。そして、最もかかわりの多い「河川」をテーマに、流域の自然とそこに生活する人間との様々な関係を、具体的な地域事例をとおして明らかにする。広く水にかかわる治水・利水・環境問題は、地域によって、川によって異なることを理解してもらう。
講義の内容／授業スケジュール	この科目は主に「河川」を対象とし、地理学や河川工学・農業水文学、また、社会科学的な視点からも流域と人間との関係について考える。河川は、河道だけでなく流域全体を捉えることが重要である。基本的には、流域(地域)における自然的特性とその土地の人々とのかかわりあい、災害・資源・環境・歴史・文化などの視点から講ずる。 第1回 「川」を考える関連学問分野 第2回 河川(流域)について 第3回 流域の水収支 第4回 河川の流況特性 第5回 河川流量からみた季節性・地域性 第6回 自然河川と都市の河川 第7回 沖積平野の地形分類 第8回 濃尾平野の地形と洪水特性 第9回 木曾三川の治水史 第10回 伝統的な治水と輪中堤 第11回 石狩川の治水対策 第12回 新潟平野の洪水と地域性 第13回 治水と水防(洪水の歴史と文化を考える) 第14回 総合治水対策と防災 第15回 日本のダム開発 第16回 ダムの堆砂と排砂 第17回 フランスの河川と洪水 第18回 日本の水資源 第19回 水利用の歴史と水資源開発 第20回 水源としての河川水と地下水 第21回 公共事業としての上下水道 第22回 農業用水と都市用水 第23回 水利用と水利権 第24回 圃場整備・減反政策と農業用水 第25回 農業用水を考える 第26回 地域用水としての農業用水 第27回 環境用水、親水・修景用水の地域事例(1) 郡上八幡 第28回 環境用水、親水・修景用水の地域事例(2) 柳川など 第29回 河川環境と健全な流域水循環 第30回 河川環境の改善と持続可能な地下水管理
準備学習	授業ではプリントを用意するが、そこに記載されている参考文献を活用して授業内容を復習しておくこと。
履修上の留意点	夏休みに現地調査を伴うレポートを作成してもらう。
成績評価の方法	授業最終日に実施予定の教場試験1回(40%)。夏休みに現地調査したレポート(後期初回の授業に提出30%)。授業中の小テストなど(30%)を合わせて評価する。
教科書／テキスト	授業時間にプリントを配布する。
参考書	参考書として、大矢雅彦(1993)『河川地理学』、古今書院。 大熊孝(2007)『増補 洪水と治水の河川史』平凡社。 高橋裕(2008)『新版 河川工学』東京大学出版会。 宇沢弘文・大熊孝編(2010)『社会的共通資本としての川』東京大学出版会。 をあげておくが、配布プリントをとおして随時紹介する。
その他	必要に応じて映像等を使用する。

履修コード	034301
科目名	外国地誌特講〔不定期開講〕
担当者名	湯田 ミノリ

講義の到達目標(ねらい)	インドネシア、特にジャカルタについて理解を深めることを目指す。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期はインドネシアの地理的位置、自然環境、民族構成とジャカルタの成立を、後期は主にジャカルタの産業、人口、都市居住等の問題を取り上げる。 (前期) ・地理的位置(インドネシアの範囲、地理的位置と自然・人文環境との関係) ・自然環境(地形、気候) ・多民族国家インドネシア成立の背景 ・植民地時代のジャカルタ ・インドネシア独立後ジャカルタの発展 (後期) ・ジャカルタ首都圏における経済発展と産業 ・ジャカルタにおける人口動態と就業構造の変動 ・カンボンと都市居住政策
履修上の留意点	参加者には、何らかの具体的な現象に注目した上で、様々な視点からの理解や判断を編み出す努力を期待したい。さらには、休暇等を利用して自主的に海外などを旅行してほしい。
成績評価の方法	年に4回試験を実施します(各25点)。また、この授業は出席が必須です。出席と試験の配点の割合は50%50%となります。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	035001
科目名	外書講読
担当者名	佐藤 哲夫 湯田 ミノリ

講義の到達目標(ねらい)	この授業では中学校レベルの日本地理の英訳本を読むことで、地理学で用いられる英語の語彙を増やすことと、地理に関する英文をなるべく速く読むことを目標にする。テキストは大学院地理学専攻の入学試験(英語)の出題範囲に含まれる。
講義の内容／ 授業スケジュール	参加者にワンセンテンスずつ逐次訳をしてもらい、解説を加えながら読み進める。毎回、既習範囲の和文英訳の課題を提出してもらう。また英単語の小テストを適宜おこなう。 (1~7) The structure and nature of Japan (8, 9) An outline of Japanese history (10~14) Various perspectives of Japan (15) The regional geography of Japan (16~23) Kanto Region (24~30) Kinki Region 第1回目の授業で進め方について説明するので、必ず出席すること。やむおえず第1回目の授業に出席できなかった場合は、テキスト準備の都合上、必ず4月14日までに佐藤に連絡すること。
準備学習	中学・高校で学習した英単語と英文法をしっかりと復習しておくこと。
履修上の留意点	下の文章はテキストのprefaceである。大意を辞書なしで把握できる程度の英語力を持っている諸君を、受講対象者として想定する。受講希望者が30人を超える場合は、人数制限を行うことがあるので、第1回目の授業には必ず出席すること。 Since the 1980s, the wave of globalization that has affected most of the world has also swept across Japan. Along with this development, more and more foreign companies have established a presence in Japan, a trend that has resulted in a rapid increase in the number of foreigners working, residing and studying throughout the country. Furthermore, the Japanese government is experimenting with various policies to attract more tourists as part of a national policy of the 21st century that is aimed at establishing Japan as a nation well equipped to cater for tourists from other countries. Thanks to worldwide interest in Japan, the perception of the country has changed greatly from "an exotic country steeped in mystery," to "a country playing an important role in supporting the industry and economy of the world" to "a country creating and transmitting modern culture to the world" as represented by cultural features such as Japanese cuisine and Japanese manga and anime. The original version of this book was initially published with the aim of helping Japanese junior high school students to understand their country within the context of globalization. In translating the book into English, we hope to help foreigners who are working, residing or studying in Japan, and those who are visiting Japan for sightseeing or for business purposes. As international exchange increases through continuing globalization, it becomes all the more necessary to gain a more accurate and deeper understanding of Japan that is not distorted by ill-informed prejudice or exoticism. At the same time, we hope that this book will be useful to students who are studying in Japanese schools abroad, as well as young Japanese people studying in Japan who wish to take off into a world in which they can talk about their country in English, the new global language. We hope this book will enjoy a wide readership and that it will provide new and useful insights into today's Japan.
成績評価の方法	出席を最重視し、毎回の課題と適宜おこなう小テストの結果を加味して成績評価する。皆勤者には賞を進呈するが、出席数が3分の2に達しない者には単位を与えない。とくに出席不良者に対するレポートによる救済は絶対しない。
教科書／テキスト	テキストはコピーして配布する。出所は下記のとおり。 『Discovering JAPAN — A New Regional Geography』(帝国書院) ISBN978-4-8071-5844-7

履修コード	038301
科目名	環境地理学
担当者名	早船 元峰

**講義の到達目標(ねらい)** 「自然と人間とのかわりあい。」  
 主題図の作成法を修得し、ビジュアルに地理学的地象を理解してもらいます。各人が責務として、環境への負担を少なくし、環境保全のためにいかに適切な対応をとるべきかを、また持続可能な環境共生都市をいかに創出すべきかを環境地誌学・環境倫理的観点を入れて、事例を通じて理解してもらいます。

**講義の内容／授業スケジュール** いくつかの日本の傾斜地や都市を選び、そこにおける自然の人間への影響・人間の自然へのはたらきかけ（土地利用・水利用・災害・環境保全など）を時代を追って論じ、とくに人間をはじめ多くの生き物を支えている“土”・近代化によって疎外された“土”の大切さを解説します。

- ・地形図
  1. 地形図の種類
  2. 等高線の種類
  3. 帯状平行投影地形断面図の作成法
  4. 起伏量図の作成法
  5. 切峰面図の作成法
  6. 主題図の図上作業
- ・土壌侵食
  7. 土壌侵食の種類と営力
  8. 土壌侵食防止農法
  9. 土壌侵食防止工法
  10. 土壌侵食は天災か人災か（素因と誘因）
- ・富良野・美瑛（観光資源“丘”）における傾斜地農業と環境保全
- 11. 富良野盆地とその周辺の地形発達史
- 12. 開拓史
- 13. 土壌侵食害の社会的理由
- 14. 農地保全事業
- 15. 営農の変化（目先の経済性・能率）
- 16. 離農離村
- 17. 大型機械による一貫作業体系
- 18. 平均平化による生態系の破壊
- 19. 丘の喪失とグリーンツーリズム

・多摩川上流域における傾斜地農業と環境保全

20. 伝統農法と土壌侵食防止
21. 自然生コンニャク栽培可能な条件
22. 団粒構造の土

- ・自然と人間の共生
  23. 環境基本計画の理念
  24. 環境共生都市（持続可能な社会）
  25. ビオトープの創出・再生
  26. “食する”こと、命のつながり
  27. 二次的自然
  28. 人間は万物の霊長？！
  29. 生態系ピラミッド
  30. 環境論

**成績評価の方法** 課題・レポート・小テスト・出席など総合的に評価します。

**参考書** 適宜紹介します。プリントを配布します。

履修コード	040101
科目名	気候学
担当者名	江口 卓

**講義の到達目標(ねらい)** 日本および世界の気候の成り立ちとその地域的・季節的な違いを理解することを目標とする。前期は日本の気候、後期は世界の気候を中心に講義を行う。

**講義の内容／授業スケジュール**

- 第1回 気候学の流れ
- 第2回－4回 世界の気候区分／日本の気候区分と季節区分
- 第5回－15回 日本の気候の季節変化とその地域性
- 第16回－18回 世界の気候のしくみ
- 第19回－30回 モンスーンアジアの気候

**準備学習** 気候に関する予備知識は必要としないが、ステップアップの講義であるので、講義の概要は復習のうえ理解し、次の講義に望むこと。

**成績評価の方法** 各学期末の筆記試験と出席を含む平常点を総合して評価する。

**教科書／テキスト** 特に指定しない。

**参考書** 中村和郎・木村竜治・内嶋善兵衛『日本の気候』（岩波書店）  
 気候影響・利用研究会編『日本の気候I』『日本の気候II』（二宮書店）  
 鈴木秀夫『風土の構造』（原書房）

履修コード	040201
科目名	気候学実習
担当者名	江口 卓

**講義の到達目標(ねらい)** 気候を研究する上で必要となる調査の方法およびデータの解析手法を身につけることを目標とする。

**講義の内容／授業スケジュール** 実習は次の内容に即して行う。  
 1) 気候観測 (第1回-5回) :  
 測器の使い方, 観測の実施, 観測データの処理  
 2) 気候データの解析 (第6回-10回) :  
 テーマを決め, 気象庁観測データの解析を行う。  
 3) 天気図の解析 (第11回-15回) :  
 上記のデータ解析によって明らかになった現象の原因を天気図を使い分析する。

**準備学習** 実習中に適時指示する。

**履修上の留意点** 気候学の講義を履修していることが望ましい。

**成績評価の方法** レポートおよび出席状況を総合して評価する。

**教科書／テキスト** 特に指定しない。

**参考書** 実習中に適時紹介する。

履修コード	041311
科目名	景観地理学
担当者名	須山 聡

**講義の到達目標(ねらい)** 前期は地理学の基礎的な概念である景観について、伝統的な景観論から人文主義的な視点までさまざまな観点を紹介することにより、景観を観察することによって地域や空間、場所の何がわかるかを講義する。また、後期は文化景観を構築する営力となる、人間の行動と知覚の空間的な視点と分析手法を講義する。

**講義の内容／授業スケジュール** 以下のテーマで講義を構成する。それぞれのトピックは1回または2回で完結する。  
 1 景観とは1 (自然景観／文化景観)  
 2 景観とは2 (客観性と主観性, メディアとしての機能)  
 3 自然環境の映し鏡としての景観 (砺波散居村, 霞ヶ浦東岸)  
 4 集落景観 (集落の形態論, 空間構造論)  
 5 景観のゲシュタルト (静岡県下田の都市景観)  
 6 景観の把握法-ポディスケープ- (風水思想)  
 7 景観から思想を読む (徳川家康と江戸)  
 8 写し取られた景観 (風景印)  
 9 景観の虚構性 (沖縄, 竹富島)  
 10 イデオロギー装置としての景観 (インドネシア, 北朝鮮)  
 11 舞台としての景観 (富山県, 井波彫刻業)  
 12 テキスト化された景観 (観光ガイドブック)  
 13 イメージと景観  
 14 メンタルマップ  
 15 選好地図  
 16 手描き地図によるイメージ観察  
 17 地名の認識, 場所の理解  
 18 子どもの空間  
 19 都市イメージの計量分析  
 20 都市イメージを構成するエレメント  
 21 文学作品の中の景観1 (横溝正史の作品群)  
 22 文学作品の中の景観2 (軽井沢の描かれ方)  
 23 文学作品の中の景観3 (有吉佐和子「鬼怒川」)

**履修上の留意点** 論理的な文章表現力を養うため、毎回約400字程度のエッセイ、または要約文の作成を課する。出席を厳格にとる。また、教場に飲食物を持ち込む者、帽子を脱がない者、メールを打つ者に対しては厳しく対応する。

**成績評価の方法** 出席と試験で評価する。

**教科書／テキスト** 指定しない。

**参考書** 配付資料などで随時紹介する。

履修コード	034701
科目名	経済地理学
担当者名	矢延 洋泰

**講義の到達目標(ねらい)** 経済的諸活動の空間構造を地理学的に捉えてみたい。なかでも世界で最も経済発展が著しい東アジア地域を中心に考察します。

**講義の内容／授業スケジュール** (1) 地理学の中における経済地理学とは (2) 経済を中心にみた世界史の潮流 (3) 経済社会の変化を探る (4) 東南アジアの基礎知識 (5) アジア・ダイナミズムの源泉を探る-OECDレポートの衝撃とその分析、アジアNIES誕生の意味。 (6) 成長の基層文化 (7) 戦後日本の経済発展と周辺アジアとの関係 (8) 東南アジアにみる地域協力機構の色々-ASEANの成立過程、シンガポールの経済開発と成長の限界、成長の三角地帯構想の背景、 (9) 冷戦崩壊後の世界と日本-冷戦とバブル崩壊後の日本の対応、幻のEAEC構想とAFTA実現の意味、太平洋を跨ぐAPECの思惑、日米中が描くASEANを核にした地域協力、 (10) 「ハブ」と「スポーク」の考え方 (11) 大航空時代の周辺アジアと日本の動向

**履修上の留意点** 学ぶことに意欲を持ち、アジアに興味と関心のある学生を期待します。文献紹介は適宜するつもりですが、それらは必ず読むようにしてください。

**成績評価の方法** 学期末の筆記試験 (80%) と、授業内に提出を求める課題、アトランダムに取る出席 (20%) で評価します。

**教科書／テキスト** 教科書は使いませんが、適宜プリントを配布します。配布は基本的に2週としますので、忘れずに取得するようにしてください。

**参考書** 矢延洋泰『インサイト東南アジア』勁草書房 3255円 ISBN4-326-65182-2

**その他** 質問は授業の後に受け付けます。諸般の事情で授業スケジュールを変更する場合があります。

履修コード	038601
科目名	計量地理学
担当者名	土'谷 敏治

**講義の到達目標(ねらい)** 地理学の研究において、統計を用いた地域特性の分析は重要な課題の1つである。本授業では、地理学の分析に必要な統計的方法・計量的方法について学習し、これらの方法を用いて調査・分析された研究論文を理解できるようになることを目的とする。さらに、講義だけでなく、各分析方法を用いて実習を行い、実際に各方法を使用できる能力を身につけることをめざす。

**講義の内容／授業スケジュール** 下記の各項目について解説するとともに課題を与え、実際にデータを処理、分析、考察することによって、それぞれの方法の理解を深める。そのため、提示されたデータや受講者各自が収集したデータを分析・考察して、結果をレポートとして提出する。

1. 統計データの種類と統計地域 (第1・2回)
2. 統計データの収集、悉皆調査、サンプリング調査とデータの整理 (第3・4回)
3. 統計データの集計と地域的分布 (第5・6回)
4. 基礎統計量の算出とグラフ化、地域分類 (第7・8回)
5. 代表的な度数分布の型 (第9回)
6. t検定 (第10～12回)
7. 分散分析、F検定と地域分類 (第13～15回)
8. アンケート調査票の作成と集計方法
9. クロス集計による属性間関係の分析と $\chi^2$ 乗検定 (第16～18回)
10. 相関・回帰分析 (第19～21回)
11. 多変量解析その1：重回帰分析 (第22～24回)
12. 多変量解析その2：主成分分析・因子分析 (第25～27回)
13. 多変量解析その3：クラスター分析 (第28～30回)

なお、計量的分析にはコンピュータの使用が必要であり、総合情報センターと地理学科のコンピュータを使用する。

**準備学習** 毎回課題が出されるので、授業中に終わらなかった場合は、次の授業までに仕上げるよう努力する。

**履修上の留意点** この授業は実習的側面ももっているため、毎回の出席と、課題の提出が重要である。なお、コンピュータを使った分析では、Microsoft Excelをおもに使用するため、これを使いこなせることが履修の条件である。とくに、配列関数の使用、データの抽出、グラフ作成などができる必要がある。これらを使いこなせない学生は、前期において「計量地理学実習」をあわせて履修すること。また、総合情報センターを使用するため、ユーザIDとパスワードを用意しておく必要がある。

**成績評価の方法** 各授業項目について提出されたレポートを点数化し、これに出席率を加味して行う。

**教科書／テキスト** とくに指定しない。

**参考書** 奥野隆史『計量地理学の基礎』(大明堂)  
野上道男・杉浦芳夫『パソコンによる数理地理学演習』(古今書院)

**その他** 教場の関係で受講生を制限することもあるので、4月第1回目の授業に必ず出席すること。

履修コード	040801
科目名	計量地理学実習
担当者名	土'谷 敏治

**講義の到達目標(ねらい)** 今日、多くのデータを統計的・計量的方法を用いて、客観的に分析するためには、コンピュータを活用できることが前提条件となっている。また、地図の作成や画像データもコンピュータ処理が一般化している。本実習では、パーソナルコンピュータをベースとして、計量地理学の学習に必要なこれらのソフトウェア使用方法を習得することを目的とする。

- 講義の内容／授業スケジュール** 次のようなスケジュールに基づいて、実習を進める。
1. Microsoft Excelによるデータの入力・加工 (第1・2回)
  2. データの分類と抽出・グラフ作成 (第3・4回)
  3. 統計分析 (第5・6回)
  4. Adobe Illustratorによる地図作成 (第7～9回)
  6. Adobe Photoshopによる写真データの加工 (第10～12回)
  7. Microsoft Power Pointによるプレゼンテーション (第13～15回)

**準備学習** 毎回課題が出されるので、授業中に終わらなかった場合は、次の授業までに仕上げるよう努力する。

**履修上の留意点** 計量地理学の受講を希望しているが、Microsoft Excel・Power Point・Adobe Photoshop・Adobe Illustratorを使用して、統計的分析やグラフ・地図作成・プレゼンテーションができない学生を対象としている。これらのソフトウェアを十分活用できる学生は受講の必要がない。また、コンピュータの基本操作やMicrosoft Windowsの操作を習得していることを前提とする。ただし、これらの未習得学生の受講も可能とするため、未習得者は必ず第1回目の授業に出席すること。実習科目であるため、毎回の出席と課題の提出が不可欠である。また、総合情報センターを利用するため、ユーザIDとパスワードを用意しておく必要がある。

**成績評価の方法** 各課題を得点化して合計し、さらに出席状況を加味して評価する。

**教科書／テキスト** とくに指定しない。

**その他** 教場の関係で受講生を制限することもあるので、4月第1回目の授業に必ず出席すること。

履修コード	041001
科目名	現代地理学特論
担当者名	平井 幸弘

**講義の到達目標(ねらい)** 人為的な開発行為によって傷ついた自然の再生を目指す「自然再生推進法」が2003年1月に施行、2007年には「第三次生物多様性国家戦略」が策定、そして2010年には「生物多様性条約」の第10回締約国会議(COP10)が名古屋で開催されるなど、近年身近な自然・生態系に関する行政や一般市民の関心が高まっている。また、IPCCによる「第4次統合報告書」も2007年11月にまとまり、地球温暖化に対する様々な対応が強く求められるようになった。このような国内外における現代の様々な環境問題を踏まえ、本講義では、とくに水辺の環境問題の事例として、それぞれの地域における人間と環境の関係について、主として自然地理学の視点から考察する。

**講義の内容／授業スケジュール** 第1回 イントロダクション：日本とアジアの水辺の環境問題  
 第2回～第6回 日本のラムサール条約登録湿地をめぐる課題と意義  
 第7回～第10回 日本の湖沼(霞ヶ浦、宍道湖・中海など)における自然再生への取り組み  
 第11回～第15回 日本の海岸(オホーツク海沿岸、東京湾、有明海など)における近年の環境問題  
 第16回～第19回 タイ中央平原のチャオプラヤ川流域における洪水や地盤沈下問題  
 第20回～第23回 タイ南部のソクラー湖地域におけるエビ養殖やマングローブをめぐる問題  
 第24・25回 ベトナム北部の江河デルタにおける海岸浸食問題  
 第26・27回 ベトナム中部フエのラグーン地域での海面上昇問題とラグーンの環境変化  
 第28・29回 ベトナム南部のメコンデルタにおける環境問題  
 第30回 アジアの水辺の環境問題のまとめ

**履修上の留意点** 現実の様々な環境問題に、広い視野から関心を持ち学ぼうとする意欲を期待したい。

**成績評価の方法** 出席とレポート及びその発表(パワーポイントを使ってのプレゼンテーション)。受講生が多数の場合は試験を行う。

**教科書／テキスト** とくに指定しない。

**その他** 高校で使う程度の地図帳(二宮書店や帝国書院発行のものなど)と12色の色鉛筆を用意することが望ましい。

履修コード	032901
科目名	交通地理学
担当者名	土谷 敏治

**講義の到達目標(ねらい)** 現代社会において、地域は人・物資・情報をはじめとする各種の相互作用によって他の地域と密接に結びついており、相互に依存し合っている。本講義では、(1)前期は、これらの地域間の結びつきを指標として、都市の地域構造・都市システム構造の特色を分析する方法を解説し、実際の調査・研究に適用できるようになることをめざす。(2)後期は、現在の交通システムの特色とその問題点を公共交通機関を中心に解説し、今後の交通政策に求められることを考える。あわせて、交通地理学の研究課題について検討する。

**講義の内容／授業スケジュール** 前期はこれまでの地理学、とくに交通地理学の研究成果を中心に、後期は具体的な交通の事例を中心に次のような内容を予定している。

- 前期
1. 交通と都市システム(第1～5回)
  2. 交通ネットワーク(第6～8回)
  3. 交通とアクセシビリティ(第9～11回)
  4. 交通と空間的相互作用モデル(第12・13回)
  5. 交通と中心地理論(第14・15回)

- 後期
6. 都市内部・都市圏における公共交通の現状と課題(第16～23回)
  7. 都市間交通の現状と問題点(第24～28回)
  8. 交通地理学の研究課題(第29・30回)

**準備学習** 授業後の当日の授業内容を復習し、理解を深めるとともに、次回の授業に備えることが望ましい。

**履修上の留意点** 多少の数字・数式等を用いて講義を進めるので、あらかじめ了解しておくこと。ただし、その内容は中学校の数学程度のものであり、数学の専門的知識はとくに必要としない。

**成績評価の方法** 前期最終回の授業時間(7月)に前期試験、後期最終回の授業時間(1月)に後期試験を実施する。2回の試験は、それぞれ100点満点で採点し、その合計点で成績を評価する。受講者は全員平等であり、学年やサークル活動などによって差別することはない。

**教科書／テキスト** とくに指定しない。

**参考書** 奥野隆史『交通と地域』(大明堂)  
 奥野隆史『計量地理学の基礎』(大明堂)  
 西村幸格・服部重敬『都市と路面公共交通 欧米にみる交通政策と施設』(学芸出版社)  
 今城光英編著『鉄道改革の国際比較』(日本経済評論社)

**その他** 後期は、具体的な事例を示すため、スライド・ビデオを使用する。

履修コード	034801
科目名	産業地域論
担当者名	須山 聡

**講義の到達目標(ねらい)** 日本の在来工業地域を事例に、地域に展開する諸産業の地域的な分析方法を提示する。講義の最初では、経済地理学的な分析の枠組みを批判的に提示する。工業は従来よりその経済的側面が強調され、立地・集積といった分布現象や工業地域に内包されたメカニズムもまた、経済的ロジックに基づいて説明される傾向が強かった。そのため、工業地理学は経済地理学の枠組みに押し込められ、地域を構成する諸要素との有機的な関係性といった地理学に独自の観点を捨象するに至った。

産業は、その地域の経済のみならず、地域社会や文化の構成要素でもある。本講義では、地域社会や文化の担い手としての産業の側面を強調する。具体的には土地利用、景観、コミュニティ、労働力、社会組織・制度などと工業(産業)の関係を検討し、工業を地域的構成要素のなかに位置づけ直すことを眼目とする。その際、従来の工業地理学ではあまり用いられてこなかった分析手法についても論ずる。

**講義の内容／授業スケジュール** 以下の予定で講義を進める。各トピックには2～4回の講義をそれぞれ当てる予定である。

- 1 日本の在来工業地域の概観
- 2 生産構造論による生産地域の把握
- 3 分布・集積の新たな説明(輪島漆器業、インキュベータ「仮説」)
- 4 在来工業地域における人口移動パターン(輪島漆器業、ライパスの援用)
- 5 在来工業とコミュニティ(輪島漆器業、産業地域社会)
- 6 在来工業による新たな景観形成(井波木彫業、景観の「演出」、「伝統」の誤謬)
- 7 在来工業を支える「制度」(結城紬、イ工制度)
- 8 文学の中の地理空間(結城紬、有吉佐和子『鬼怒川』)
- 9 製品と作品-工業と芸術の接点-
- 10 生産と生活-中小企業集積地域に対する視点-

**履修上の留意点** 出席を厳格にとる。また、教場に飲食物を持ち込む者、帽子を脱がない者、メールを打つ者に対しては厳しく対応する。

**成績評価の方法** 出席状況(50%)と試験(50%)を規準とする。

**教科書／テキスト** 須山 聡『在来工業地域論-輪島と井波の存続戦略-』(古今書院)2004年  
購入を義務づけるものではないが、あった方が絶対に便利。

履修コード	043201 043202
科目名	自然地理学概説 自然地理学概論
担当者名	高木 正博

**講義の到達目標(ねらい)** 自然地理学の分野のうち、河川や地下水など水にかかわる地理学を中心に講ずる。近年、河川環境や地下水の汚染・保全などに関心が寄せられている。これらのテーマを考えるため、その基礎となる河川や地下水の水文特性について、地域事例をもとに説明する。

**講義の内容／授業スケジュール** 年間の授業内容は次の通り予定している。

1-2自然地理学と水文学、3-4水文循環と水収支、5-6河川の流域とは、7-8日本の河川と洪水、9-10河川の侵食・運搬・堆積作用、11-12地形と災害、13-14都市の河川と水害、15-16自然湖沼と人造ダム湖、17-18地下水とは、19-21地下水と河川水、22-23地下水の利用、24-26地下水の汚染、27-30都市の水環境と地下水など

地域事例を紹介する際、地形図や空中写真なども利用して説明する。

**準備学習** 授業ではプリントを用意するが、そこに記載されている参考文献を活用して授業内容を復習しておくこと。

**履修上の留意点** 講義が中心になるが、受講者にも問題意識を持ってもらうため、夏休み中に現地調査を伴う課題を提示する。地域概要を把握するために、地図帳や地形図を利用してほしい。

**成績評価の方法** 年度末の定期試験(40%)と夏休みの課題レポート(30%)に重点を置いて評価するが、授業中に随時実施する課題(30%)なども加算する。

**教科書／テキスト** 授業時間にプリントを配布する。

**参考書** 配布プリントをともし随時紹介する。

履修コード	043101 043102
科目名	自然地理学概説 自然地理学概論
担当者名	早船 元峰

**講義の到達目標(ねらい)** 人間生活の舞台である第四紀の大地の生成過程などを論じ、さらに自然に対し人間はいかにあるべきかを災害などの環境問題を通して考えていく。また、いくつかの地域をとりあげ、人間と自然とのかかわりあい(人間に対する自然の影響・自然への人間の働きかけ)を主に環境地誌的立場から論じる。

**講義の内容／授業スケジュール**

- (1～6) ・地形図とは、主題図の作成方法・読図
- (7～12) ・山麓における土地利用
- (13～17) ・山麓における環境保全
- (18～20) ・気温と湖水温の垂直分布の季節的变化と人間とのかかわり
- (21～23) ・北海道本部の気候地形
- (24～27) ・関東平野の地形発達史(東京の地形の成り立ち)
- (28～30) ・ビオトープ(学校ビオトープ、緑の回廊、自然工法)

**履修上の留意点** 国土地理院発行の地形図を数枚用意してもらい、それらをもとに種々の作業(高度別着色・地形断面図など)をして、理解を一層深めてもらう。直定規・方眼紙・トレース紙・硬質色鉛筆・黒色水性ペンを各自用意すること。

**成績評価の方法** 課題・レポート・出席状況などによる平常点。



履修コード	031801
科目名	自然地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	江口 卓

**講義の到達目標(ねらい)** 自然地理学のフィールド調査を行う際に必要となる基礎的調査手法および調査で得られたデータの解析手法を身につけることを目標とする。

**講義の内容／授業スケジュール** 実習は次の3つのテーマについて行う。  
 1) 地図と実体視、簡易測量（第1回～5回）  
 2) 分布図の書き方、読み方（天気図を例に）（第6回～9回）  
 3) データの分析（簡単な統計処理、グラフの作成）（第10回～15回）

**準備学習** 実習中に適時指示する。

**履修上の留意点** 毎回出席し、レポートの提出期限は厳守すること。

**成績評価の方法** レポートと出席状況を総合して評価する。

**教科書／テキスト** 特に指定しない。

**参考書** 実習中に適時紹介する。

履修コード	037801
科目名	自然地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	江口 卓

**講義の到達目標(ねらい)** 自然地理学のフィールド調査を行う際に必要となる基礎的調査手法および調査で得られたデータの解析手法を身につけることを目標とする。

**講義の内容／授業スケジュール** 実習は次の3つのテーマについて行う。  
 1) 地図と実体視、簡易測量（第1回～5回）  
 2) 分布図の書き方、読み方（天気図を例に）（第6回～9回）  
 3) データの分析（簡単な統計処理、グラフの作成）（第10回～15回）

**準備学習** 実習中に適時指示する。

**履修上の留意点** 毎回出席し、レポートの提出期限は厳守すること。

**成績評価の方法** レポートと出席状況を総合して評価する。

**教科書／テキスト** 特に指定しない。

**参考書** 実習中に適時紹介する。

履修コード	037701
科目名	自然地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	田中 靖

**講義の到達目標(ねらい)** 自然地理学の学習に必要な基礎的な技術と考え方を習得する。

**講義の内容／授業スケジュール** 第1回～第3回：天気図の作成  
 第4回～第5回：駒大付近の地形と土地利用の観察実習  
 第6回～第8回：基礎統計（回帰分析・相関分析、コンピュータの使い方）  
 第9回～第11回：地形図の読図、地形計測  
 第12回～第13回：空中写真の判読  
 第14回～第15回：レポートの作成

**履修上の留意点** 必ず出席し、課題は期限を守って提出すること。

**成績評価の方法** レポートと出席状況を総合して評価する。

**教科書／テキスト** 適宜紹介する。

**その他** 定規や色鉛筆、地形図等を準備する必要がある。適宜指示する。

履修コード	031901
科目名	自然地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	早船 元峰

**講義の到達目標(ねらい)** 地理学を修める上に必要な自然関係の基礎的作業を中心に行う。

**講義の内容／授業スケジュール** (1～3) ・2.5万分の1あるいは5万分の1地形図を用いた主題図の作成（切峰面図・起伏量図・帯状平行投影地形断面図など）・読図  
 (4～6) ・試料の収集・分析・整理の方法（粒度分析など）  
 (7～9) ・調査器材・器具の使用法  
 (10～12) ・空中写真判読  
 (13～15) ・地形断面図（実測）の作成

**履修上の留意点** 地形図や製図用具は各自用意してもらう。  
 出席をこころがけ、成果の提出期限を守ること。

**成績評価の方法** 出席状況・提出物の内容などにより評価する。

**その他** 実習に必要な資料は随時配布する。

履修コード	031701
科目名	自然地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	平井 幸弘

**講義の到達目標(ねらい)** 自然地理学を学ぶためには、地形図や空中写真などを利用して地域の自然的な事象を読み取る基本的な作業を行うことが重要である。本講義は、これらの作業をとおして基礎的な技術を修得するとともに、地域調査の基礎を学ぶことも目的とする。

**講義の内容／授業スケジュール**  
 第1回 寺田寅彦「地図をながめて」  
 第2回 地図、空中写真、衛星画像  
 第3回 「品川用水」を歩く（フィールドワーク）  
 第4回～第5回 基礎的な地形図の読図と作業  
 第6回～第7回 火山のハザードマップ  
 第8回～第9回 雨温図とハイサーグラフ  
 第10回～第12回 各自の課題に沿った地図作業と情報収集  
 第13回～第15回 各自の課題に沿ったプレゼンテーション

**履修上の留意点** 実習科目なので、課題に対する成果品(作業した地図やグラフ、レポートなど)を提出することが必要条件である。

**成績評価の方法** 提出物(地図、グラフ、レポートなど)の内容、毎回の作業進捗状況を総合的に評価する。

**教科書／テキスト** 各課題毎にプリントを配布して説明する。特定の教科書はない。

**参考書** 大矢雅彦ほか(1998, 2002改訂増補)『地形分類図の読み方・作り方』古今書院

**その他** 高校で使う程度の地図帳(二宮書店や帝国書院発行のものなど)と、12色の色鉛筆を用意すること。

履修コード	037601
科目名	自然地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	平井 幸弘

**講義の到達目標(ねらい)** 自然地理学を学ぶためには、地形図や空中写真などを利用して地域の自然的な事象を読み取る基本的な作業を行うことが重要である。本講義は、これらの作業をとおして基礎的な技術を修得するとともに、地域調査の基礎を学ぶことも目的とする。

**講義の内容／授業スケジュール**  
 第1回 寺田寅彦「地図をながめて」  
 第2回 地図、空中写真、衛星画像  
 第3回 「品川用水」を歩く（フィールドワーク）  
 第4回～第5回 基礎的な地形図の読図と作業  
 第6回～第7回 火山のハザードマップ  
 第8回～第9回 雨温図とハイサーグラフ  
 第10回～第12回 各自の課題に沿った地図作業と情報収集  
 第13回～第15回 各自の課題に沿ったプレゼンテーション

**履修上の留意点** 実習科目なので、課題に対する成果品(作業した地図やグラフ、レポートなど)を提出することが必要条件である。

**成績評価の方法** 提出物(地図、グラフ、レポートなど)の内容、毎回の作業進捗状況を総合的に評価する。

**教科書／テキスト** 各課題毎にプリントを配布して説明する。特定の教科書はない。

**参考書** 大矢雅彦ほか(1998, 2002改訂増補)『地形分類図の読み方・作り方』古今書院

**その他** 高校で使う程度の地図帳(二宮書店や帝国書院発行のものなど)と、12色の色鉛筆を用意すること。

履修コード	038201 038202
科目名	自然地理学入門 地域環境研究概説
担当者名	田中 靖 早船 元峰 高木 正博 江口 卓 平井 幸弘

**講義の到達目標(ねらい)** 自然地理学ではどのような視点から自然をとらえていくのかを、自然地理学の諸分野において概観する。さらに、自然と人間のかかわりについて考えることにより、地理学におけるものの見方について学ぶ。

**講義の内容／授業スケジュール**  
 1. 気候と自然環境の変化について考える【江口 卓】  
 気候変化／地球温暖化問題／地球温暖化の植生への影響  
 2. 身近の自然とGIS【田中 靖】  
 気候変動と海面変化／東京の地形／プレートテクトニクスと山地形成  
 ／GISを用いた環境モニタリング  
 3. 自然災害を知る・防ぐ【平井幸弘】  
 自然災害と環境問題—いかに防ぐか／火山と火山災害／地震、活断層、津波災害  
 ／河川と土砂災害／平野と洪水・高潮  
 4. 都市を中心とした水の循環【高木正博】  
 陸水・海水の循環／河川の流域と都市の川／都市の水害／都市をめぐる水  
 ／都市の水環境を支える地下水／都市の水循環と環境保全  
 5. 扇状地における自然と人間のかかわりあい【早船元峰】  
 大間々扇状地・黒部川扇状地を例として／地形発達史  
 ／土地条件・土地利用・水利用／治水・集落の立地

**成績評価の方法** 定期試験は行わず、評価は担当者ごとの小テストおよび出席状況を考慮して行う。出題・採点は各担当者が行い、その結果を総合して評価する。

**参考書** シリーズ『自然景観の読み方』全12冊、岩波書店。  
 シリーズ『自然環境とのつきあい方』全7冊、岩波書店。  
 杉谷 隆・平井幸弘・松本 淳『風景のなかの自然地理—改訂版』、古今書院。  
 山田安彦 編著『総合 地域の科学—水と地域のかかわり合い—』、古今書院。  
 松岡憲知・田中博・杉田倫明・村山祐司 ほか編『地球環境学』、古今書院。  
 新井 正 ほか著『都市環境学シリーズ2『都市の水文環境』、共立出版。  
 田淵 洋 編著『自然環境の生い立ち』（第三版）、朝倉書店。

履修コード	034901
科目名	社会地理学
担当者名	伊藤 修一

**講義の到達目標(ねらい)** 人文地理学で注目する立地や空間分布は、経済合理性に照らして説明できる部分以外に、人間集団やそれにより生じた構造・関係の特徴が空間に表出した結果と理解できるものも少なくない。この講義では、そうした社会の特徴を理解した上で、それらが空間や場所とどのように結びついているのかを、地図を用いて、経済立地的視点への批判も踏まえながら考察・説明できることを目標とする。

**講義の内容／授業スケジュール** 社会地理学の流れを概説した後に、特に都市社会の変化と背景について概説する。それらを踏まえて、女性や子ども・若者といった人口のサブ・グループや、家族をはじめとした社会組織・システムと、空間・場所との関係に注目する。最終的には学んだことをベースとして、各自の関心に基づいて社会地理的な課題に取り組んでもらう。  
第1回：オリエンテーション、第2回：社会地理学とは？、第3～5回：都市生活様式とその背景の変化、第6～10回：ジェンダーと地理、第11～15回：家族と地理、第16～20回：子ども・若者と地理、第21～30回：社会地理学の実践  
なお、受講者数によって構成や内容を変更することがある。

**履修上の留意点** 基本的な経済地理な地域の捉え方を理解していることが望ましい。

**成績評価の方法** 講義期間中に実施する試験あるいはレポートの結果により評価する。

**教科書／テキスト** 高校などで利用した地図帳を準備することが望ましい。

**参考書** ノックス、P.・ピンチ、S. 著、川口太郎・神谷浩夫・高野誠二訳『新版 都市社会地理学』古今書院、6090円、ISBN4-7722-5103-0  
町村敬志・西沢 晃彦『都市の社会学-社会がかたちをあらわすとき』有斐閣、2520円、ISBN4-6411-2103-6  
水内俊雄編『空間の社会地理』朝倉書店、3,990円、ISBN4-2541-6715-6

**その他** 講義ではプリントを随時配布する。第21～30回の講義はYeStudyを通して指導も行うので、履修者は開講後必ず登録を済ませること。

履修コード	035101
科目名	人口地理学
担当者名	平井 誠

**講義の到達目標(ねらい)** 現在「少子高齢化」という現象が関心を集めているが、日本ではこれまでも「過疎・過密」「東京一極集中」「ドーナツ化」など、人口に関する事柄が社会的な課題として議論されてきた。これらの問題はいずれも、人口規模や人口構造の地域的差異に関する現象であり、空間的な視点、地理学的な視点から捉えることによってその理解が容易になる。

本講義は、人口の規模や構造、およびその変化に関する地域性について考える。前期は、人口の規模、分布および構造に焦点を当て、後期は、人口分布を変化させる要因としての人口移動に焦点を当てる。これらの指標の意味やその地域的な差異などを理解しながら、人口という側面から地域性を把握する手段を習得することを目指す。講義では主に日本の人口指標を使用するので、人口という側面から見た日本の特性を理解することが、最終的な目標となる。

**講義の内容／授業スケジュール**

前期：  
1 前期ガイダンス  
2・3 人口変化と人口学的方程式  
4・5 人口変化の要因（出生）  
6 人口変化の要因（死亡）  
7・8 人口分布（集中指数・重心）  
9・10 人口構造（年齢構造）  
11・12 人口構造（産業構造）  
13・14 人口構造（高齢化の影響および対策）  
15 中間試験

後期：  
1 後期ガイダンス  
2・3 人口移動1（重力モデル）  
4・5 人口移動2（日本の人口移動）  
6 人口移動3（大都市圏の人口移動）  
7 人口移動4（都心回帰）  
8 年齢別移動率の推計（コーホート）  
9・10 高齢人口移動1（移動パターン）  
11・12 高齢人口移動2（大都市圏における流入）  
13 高齢人口移動3（非大都市圏における流入）  
14 高齢人口移動4（欧米との比較）  
15 期末試験

(受講者の興味や進度によって適宜調整する。)

**履修上の留意点** 教科書は指定しない。配布資料を用いて講義を行う。講義中に簡単な実習・計算を行う場合があるので、電卓があると望ましい。

**成績評価の方法** 前期終了時の中間試験・後期終了時の期末試験および平常点（出席や提出物）の総合評価とする。

**教科書／テキスト** 指定しない。

**参考書** 阿藤 誠『現代人口学』日本評論社。  
荒井良雄他『日本の人口移動 ライフコースと地域性』古今書院。  
大友 篤『日本の人口移動』大蔵省印刷局。  
小笠原節夫『人口地理学入門』原書房。  
石川義孝『人口減少と地域』京都大学学術出版会。  
石川義孝・井上孝・田原裕子編『地域と人口から見た日本の姿』古今書院。  
その他講義中に紹介する。

履修コード	036901 036902 036903
科目名	人文地理学概説 人文地理学概論
担当者名	中村 剛

講義の到達目標(ねらい)	広義の人文地理学について、理論やモデルを用いて概説する。一方で、「人文地理学」さらには「地理学」が、我々の実生活（地域の社会・文化・自然）と深く関わっていることを強く意識した講義としたい。
講義の内容／授業スケジュール	1・2：人文地理学とは？（イントロ、自然地理学・地誌学との関係）、3・4：地図（地理学と地図、地図の歴史、地図の利用と今日的課題）、5・6：地理教育と教養地理（中学・高校における地理教育、地理的知識の効用）、7・8：自然（気候景観、人文地理学と「自然」との関わり）、9・10：農業（農業立地論、農業地域区分、文化としての農業）、11・12：鉱工業（鉱業分布、工業立地と工業地域）、13・14：貿易（食料・鉱産資源の輸出入、フェアトレード、南北貿易）、15・16：農村（都市を支える農村、過疎化、高齢化）、17・18：都市（都市とは何か、都市化、都市構造）、19・20：都市計画と土地利用（都市計画は何をしてきたか、都市計画法制度とその問題）、21・22：ツーリズム（ツーリズムの歴史、マストゥーリズムとオルタナティブツーリズム）、23・24：交通（縮小する世界、時間距離）、25・26：文化・国際理解（南北問題、国際理解教育）、27・28：環境問題と災害（温暖化と地球環境、成長と破壊）、29・30：まとめ（総括、試験） 詳細については、第1回目の講義で説明する。
準備学習	広く社会に興味・関心をもつこと、「なぜ?」「どうして?」と常日頃から考えることが、本講義の内容理解への入口となるはずである。さらには、新書程度でよいので関連する書籍を読み進めると、より講義内容を深めることができる。なにより、積極的に講義に“参加する”姿勢が重要である。
履修上の留意点	「人文地理学」さらには「地理学」を概説するこの講義に、強い興味・関心を持つ学生の受講を希望する。よって、出席状況や授業への参加態度も評価に大きく影響する。遅刻や途中退室、授業中の携帯電話やPCの利用は認めない。詳細は第1回目の講義で説明する。
成績評価の方法	前期・後期それぞれ試験を行う。この両試験を受験し、かつ出席時数（全講義時間数の2/3）をクリアしている者を成績評価の対象とする。成績評価は、試験、出席、授業中の小テスト、提出課題のすべてを総合して行う。出席は特に厳しく取り扱うこととする。出席時数が足りていても、試験の結果が悪ければ単位認定は出来ない。逆もまた同じである。評価は厳粛に行う。
教科書／テキスト	高橋伸夫・谷内達・阿部和俊・佐藤哲夫・杉谷隆 編(2008)：『改訂新版 ジオグラフィー入門』古今書院 2,500円(税別) ISBN 978-4-7722-3118-3 高校用の「学校地図帳」を用意することが望ましい。
参考書	参考文献（書籍、論文等）は授業で紹介する。受講生諸君が手に取りやすいものを多く紹介する。
その他	授業はパワーポイントを利用して進める。また、YeStudyを利用して教材の提示を行うので、登録することを推奨する。詳細は、第1回目の講義で説明する。受け身の姿勢ではなく、積極的に講義に参加してほしい。

履修コード	037001 037002 037003
科目名	人文地理学概説 人文地理学概論
担当者名	中村 剛

講義の到達目標(ねらい)	広義の人文地理学について、理論やモデルを用いて概説する。一方で、「人文地理学」さらには「地理学」が、我々の実生活（地域の社会・文化・自然）と深く関わっていることを強く意識した講義としたい。
講義の内容／授業スケジュール	1・2：人文地理学とは？（イントロ、自然地理学・地誌学との関係）、3・4：地図（地理学と地図、地図の歴史、地図の利用と今日的課題）、5・6：地理教育と教養地理（中学・高校における地理教育、地理的知識の効用）、7・8：自然（気候景観、人文地理学と「自然」との関わり）、9・10：農業（農業立地論、農業地域区分、文化としての農業）、11・12：鉱工業（鉱業分布、工業立地と工業地域）、13・14：貿易（食料・鉱産資源の輸出入、フェアトレード、南北貿易）、15・16：農村（都市を支える農村、過疎化、高齢化）、17・18：都市（都市とは何か、都市化、都市構造）、19・20：都市計画と土地利用（都市計画は何をしてきたか、都市計画法制度とその問題）、21・22：ツーリズム（ツーリズムの歴史、マストゥーリズムとオルタナティブツーリズム）、23・24：交通（縮小する世界、時間距離）、25・26：文化・国際理解（南北問題、国際理解教育）、27・28：環境問題と災害（温暖化と地球環境、成長と破壊）、29・30：まとめ（総括、試験） 詳細については、第1回目の講義で説明する。
準備学習	広く社会に興味・関心をもつこと、「なぜ?」「どうして?」と常日頃から考えることが、本講義の内容理解への入口となるはずである。さらには、新書程度でよいので関連する書籍を読み進めると、より講義内容を深めることができる。なにより、積極的に講義に“参加する”姿勢が重要である。
履修上の留意点	「人文地理学」さらには「地理学」を概説するこの講義に、強い興味・関心を持つ学生の受講を希望する。よって、出席状況や授業への参加態度も評価に大きく影響する。遅刻や途中退室、授業中の携帯電話やPCの利用は認めない。詳細は第1回目の講義で説明する。
成績評価の方法	前期・後期それぞれ試験を行う。この両試験を受験し、かつ出席時数（全講義時間数の2/3）をクリアしている者を成績評価の対象とする。成績評価は、試験、出席、授業中の小テスト、提出課題のすべてを総合して行う。出席は特に厳しく取り扱うこととする。出席時数が足りていても、試験の結果が悪ければ単位認定は出来ない。逆もまた同じである。評価は厳粛に行う。
教科書／テキスト	高橋伸夫・谷内達・阿部和俊・佐藤哲夫・杉谷隆 編(2008)：『改訂新版 ジオグラフィー入門』古今書院 2,500円(税別) ISBN 978-4-7722-3118-3 高校用の「学校地図帳」を用意することが望ましい。
参考書	参考文献（書籍、論文等）は授業で紹介する。受講生諸君が手に取りやすいものを多く紹介する。
その他	授業はパワーポイントを利用して進める。また、YeStudyを利用して教材の提示を行うので、登録することを推奨する。詳細は、第1回目の講義で説明する。受け身の姿勢ではなく、積極的に講義に参加してほしい。

履修コード	032301
科目名	人文地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	小田 匡保

講義の到達目標(ねらい)	人文地理学の研究調査に必要な資料について学習し、さらに基本的な図表や図表入りのレポートが作成できるようにする。
講義の内容／ 授業スケジュール	1. 文献を見る 2. 地形図を買う 3～4. 手書きによる地図の作成 5. 情報検索 6～8. 統計データの加工と表、表入りレポートの作成（エクセル、ワード使用） 9～10. グラフとグラフ入りレポートの作成（エクセル、ワード使用） 11～14. 画像の利用と地図の作成（ペイント、ワード使用）
準備学習	パソコンが不得意な学生は、コンピュータ基礎科目を履修するなどして、パソコンの基本的な使い方に慣れておくこと。ワードがある程度使えるという前提で授業を進める。
履修上の留意点	毎回課題を出すので、出席はもちろんのこと、課題を遅れずに提出すること。ただし、不十分な内容の場合は再提出を求める。授業の途中から総合情報センターを利用するので、利用者IDを手元に用意しておくこと。
成績評価の方法	成績評価は、出席状況、課題の提出状況（期限内に提出したかどうかを含む）、提出された課題の内容、小テストを総合して行なう。提出されない課題がある場合は、単位認定は保証できないので、課題はすべて提出すること。
教科書／テキスト	担当教員作成のプリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
その他	定規・地形図などを用意する必要がある。詳細は、授業時に随時指示する。

履修コード	038001
科目名	人文地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	佐藤 哲夫

講義の到達目標(ねらい)	この実習では、人文地理学のレポートが作成できるようになることを目標にする。図表やレポートの体裁、統計分析や地図作成などの基礎的な技術について学ぶ。
講義の内容／ 授業スケジュール	以下の内容と予定で、受講者の理解度を見て調整しながら進める。 (1～5) 地図と画像の利用法（読図、地図編集・計測、写真など） (6～10) 文献の利用法（文献検索、論文要旨の作成など） (11～15) 統計の利用法（統計分析、グラフ作成など）
準備学習	中学卒業程度の数学、地図の知識に自信がない者は、必ず問題集などで復習しておくこと。
履修上の留意点	毎回課題を課す。授業時間内に終わらなかった課題は、持ち帰って仕上げてもらおう。欠席した場合は、教員に連絡して当該時間の課題を受け取り、自習で課題を仕上げてもらおう。
成績評価の方法	課題の提出状況で評価する。出席も取るが、これは受講者の進捗を把握するためのものである。課題提出の最終的な締め切りに遅れた場合は不可になる。
教科書／テキスト	教材と作業課題は授業時間に配布する。

履修コード	032201
科目名	人文地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	須山 聡

講義の到達目標(ねらい)	人文地理学における基本的な分析手法を習得するとともに、最低限必要な表現（図的表現・文章表現）技法を身につける。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1) 地形図と空中写真 (2) 文献検索・文献リストの作成 (3) 統計データと統計地図の種類と利用法 (4) 土地利用調査（野外観察の基礎） (5) 土地利用図の作成（口頭表現のトレーニング） (6) 景観の分析（風景印） (7) 統計地図の作成（コロプレスマップ） (8) 統計地図の作成（ドットマップの作成） (9) 地図の計測（方眼法） (10) 地図の計測（ポイントサンプリング） (11) 土地利用の分析（修正ウイパー法） (12) 流動データの分析（最大流動法） (13) 人口の静態的分析（ランクサイズルール） (14) 人口の静態的分析（人口ピラミッド） (15) 人口の動態的分析（コーホート分析）
準備学習	予習はとくに必要ない。普段から新聞や書籍の地図表現に関心を持ってほしい。
履修上の留意点	各回に与えられる課題は次回までにレポートとして提出する。本実習では、日本語表現を地理学で学ぶ上での重要な能力と位置づけている。課題未提出者はノルマが雪だるま式に増えて首が回らなくなるおそれがある。
成績評価の方法	毎回の授業で課されるレポートをもとに判断する。レポートは要求水準に到達するまで何度でも書き直しを求める。具体的には合格したレポートは1点、不合格は0.5点、未提出は0点とし、それらの合計点に基づいて評価する。したがって、不合格または未提出であっても再提出して合格すればよい。
教科書／テキスト	毎回資料を配布する。
参考書	製図ペン・電卓を利用する。

履修コード	037901
科目名	人文地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	高橋 健太郎
講義の到達目標(ねらい)	レポートや論文を作成するための基礎的な学力を身につけ、人文地理学や地図学、地域調査への理解を深めるために、実習形式で、学術論文や統計資料、地図、フィールドワークなどについて学ぶ。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回：オリエンテーション、図書館の利用と文献の検索、第2～3回：地形図を用いた地域変容の考察、第4～8回：統計資料の理解、表計算とグラフ、第9～11回：統計地図による地域性の考察、第12～15回：写真を用いた地域調査レポート。
準備学習	下記の参考書および授業中に紹介する文献を事前に読むことにより、授業内容に対するより深い理解が可能となる。
履修上の留意点	この授業は実習科目であるため、毎回出席し、その日の学習内容をよく理解し、課題をきちんと仕上げ提出するということが特に求められる。遅刻は厳禁である。
成績評価の方法	授業への出席状況と課題の提出状況で評価する。
参考書	浮田典良ほか『ジオ・パル21—地理学便利帖—』、海青社。

履修コード	038101
科目名	人文地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	土谷 敏治
講義の到達目標(ねらい)	人文地理学の調査・分析に必要な資料の収集・整理方法、統計的分析方法、製図技術を身につけることを目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	9～11月上旬：コンピュータを用いて、レポートの作成方法、文献検索方法、統計データの処理・グラフ化を行う。11月中旬～12月：資料の整理、図表・地図の作成の実習を行うとともに、分析・考察能力を身につける。 主な実習項目は、次のとおりである。 1. レポートの作成方法（第1回） 2. 文献の検索と読解（第2回） 3. 表計算ソフトによる統計データの整理・集計・加工（第3・4回） 4. 統計データの分析とグラフ作成（第5・6回） 5. コンピュータによる地図作成と地図表現力の向上（第7～9回） 6. 階級区分図の作成（第10・11回） 7. 製図実習（第12～15回）
準備学習	毎回課題が出されるので、授業中に終わらなかった場合は、次の授業までに仕上げるよう努力する。
履修上の留意点	毎回必ず出席し、授業で説明を聞いた上で、各課題について実習する。上記のスケジュールにしたがって課題を与えるので、その結果の図・表と分析・考察を必ず提出する。コンピュータを使用するので、総合情報センターのユーザーID、パスワードを用意しておく必要がある。コンピュータ使用の経験者・未経験者を問わず、基礎から使用方法を学習することを原則とするので、未経験者もとくに心配する必要はない。ただし、経験者ならびに希望者は総合情報センターの設備のみでなく、地理学科の地理分析用コンピュータやソフトウェアを使用して、さらに高度な分析方法を学習することも可能である。
成績評価の方法	すべての提出物を点数化して評価する。提出物の図・表と分析・考察は1：1の比重とする。地図の作製は、多くの時間を必要とすることから、他の課題の2倍の比重で評価する。また、実習としての授業の性格上出席を重んじ、出席率が7割に達しない者は単位を認定しない。
教科書／テキスト	とくに指定しない。
参考書	地理学の基礎的な調査・研究方法を学ぶ上で、たとえば次のような文献が参考となろう。 浮田典良編『ジオ・パル21 地理学便利帖』（海青社） 中村和郎・高橋伸夫編『地理学講座1 地理学への招待』（古今書院） 菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著『地理学講座2 地理的情報の分析手法』（古今書院） 高橋伸夫・溝尾良隆編『地理学講座3 実践と応用』（古今書院）

履修コード	032101
科目名	人文地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	橋詰 直道
講義の到達目標(ねらい)	人文地理的諸現象を調査・分析し、レポートにまとめるための基礎的手法を学習する。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1)(2)文献と地図データ収集（地理学文献の検索方法・地図データ等の入手方法）、(3)(4)地理情報の判読（地形図読図・空中写真判読）、(5)(6)地理データの処理（統計と統計地域・データの地図化）、(7)(8)地理データの地域特性の分析（基礎統計分析手法）、(9)(10)調査課題の設定（地理的課題と地域の設定）、(11)(12)現地調査の方法（サンプリングとアンケート調査）、(13)(14)調査レポート（プレゼンテーション・文献レビュー）、(15)まとめ
履修上の留意点	総合情報センターのパソコン教室を使用。必修科目であり、毎週新たな課題が出されるので、特に課題への積極的な取り組みが必要である。出席（遅刻をしないこと）や授業への参加態度も重視する。課題の提出期限を厳守すること。
成績評価の方法	期間中に出される課題・レポートや地図などの成果品、授業への出席（一定基準以上）や学習状況などを総合的に評価する。
教科書／テキスト	とくに定めない。なお、毎時間の課題についてはプリントを配布する。
その他	総合情報センター利用登録を済ませておくこと。

履修コード	032501 032502
科目名	人文地理学入門 地域文化研究概説
担当者名	櫻井 明久 土谷 敏治 小田 匡保 佐藤 哲夫 橋詰 直道 須山 聡 高橋 健太郎

**講義の到達目標(ねらい)** この授業では、担当者各自がそれぞれの専門領域について、様々な地域の事例を引きながら、地理学の基本的概念(位置、分布、立地、距離、密度、地理的事象、地域性・地域的特色、地域、地域概念、地域区分・地域分類、地域構造、空間構造、地域のスケールと階層性、地域の変化)を考察し、この基本概念の扱いを柱に様々な系統地理学と地域研究・地誌からなる人文地理学、地理学の構造を概観したい。

また、内容的には、取り上げる日本の事例から、ないしは諸外国の事例と対比することによって、日本の自然環境と生業・生活文化、集落・文化景観の形成と地域性、交通の発達と産業の発展、都市の形成と発展、国土開発といった内容項目に関わりながら日本の地域性を明らかにしたい。

**講義の内容／授業スケジュール**

1. 景観の見方・読み方・考え方(須山)
2. 民族文化を考える(高橋)
3. 都市の歴史と交通(土谷)
4. 文化地理学いろいろ(小田)
5. 村の土地利用に見る「地域」(櫻井)
6. 熱帯アジアの地域研究入門(佐藤)
7. 都市とまちづくり入門(橋詰)

**履修上の留意点** 次のスケジュールで、1人の教員が4回ずつ担当する予定である。毎回テーマが変わるので、必ず出席することが必要である。

1. 須山: 4月12日から5月10日まで
2. 高橋: 5月17日から6月7日まで
3. 土谷: 6月14日から7月5日まで
4. 小田: 7月12/19日 9月20/27日まで
5. 櫻井: 10月4日から10月25日まで
6. 佐藤: 11月1日から11月22日まで
7. 橋詰: 11月29日・12月6/13/20日

**成績評価の方法** 7人の教員が、それぞれの講義内容に関するレポートを課すか試験を実施し、その得点に出席状況などを加味して各自の成績を評価する。その上で、7人の担当者の合計点によって総合評価する。

**教科書／テキスト** とくに指定しない。

**参考書**

須山: 須山聡「在来工業地域論—輪島と井波の存続戦略—」古今書院、山と地図のフォーラム「富士山展望百科」実業の日本社  
高橋: 佐々木信彰編「現代中国の民族と経済」世界思想社、山下清海編「エスニック・ワールド—世界と日本のエスニック社会—」明石書店、2008年  
土谷: 早川東三・工藤幹巳「ドイツを知るための60章」明石書店、宇都宮浄人「路面電車ルネッサンス(新潮社新書034)」新潮社  
小田: 金子優子編「西の牛肉、東の豚肉—家計簿から見た日本の消費—」日本評論社、坂本光司研究室・アタックグループ編「消費の県民性を探る—47都道府県で売れる商品・売れない商品—」同友館  
佐藤: 比嘉政夫「沖縄からアジアが見える」(岩波ジュニア新書) 矢ヶ崎典隆他編「地理学基礎シリーズ3 地誌学概論」朝倉書店  
橋詰: 小林秀樹「集住のなわばり学」彰国社、渋谷昌三(1990)「人と人との快適距離」NHKブックス、増淵敏之「物語を旅するひとひと」溪流社  
櫻井: 尾留川正平編著「沿岸集落の生態」二宮書店、櫻井明久「西ドイツの農業と農村」古今書院

履修コード	040301
科目名	水文学
担当者名	高木 正博

**講義の到達目標(ねらい)** 水文学は自然地理学分野の一つであるが、高等学校の授業などでは学ぶ機会が少なかったことと思う。しかし、地球上の水と物質の動きを研究対象とする水文科学は、水循環・物質循環や水収支の概念を基本に据えることで、環境問題と深い結びつきを有していることがわかる。この授業では様々な水循環システムを事例に、環境問題とのかかわりについて考えてゆく。

**講義の内容／授業スケジュール** 年間の授業内容は下記のとおり予定している。  
(1) 水文学とは、(2-3) 水の特長、水循環システム、(4-11) 水循環プロセス/土壌水・地下水・蒸発散、(12-14) 植生と水循環、(15-20) 人間活動と水質、(21-24) 水循環システムの人為改造と災害、(25-27) 人の歴史と水循環、(28-30) 「水の世紀」における課題

**準備学習** 授業ではプリントを用意するが、そこに記載されている参考文献を活用して授業内容を復習しておくこと。

**履修上の留意点** 化学的な知識を必要とすることがある。

**成績評価の方法** 試験は、前期と後期の授業最終日に実施予定の教場試験(80%)。追試験は行わない。その他、授業中の課題などの平常点(20%)と合わせて評価する。

**教科書／テキスト** 授業時間にプリントを配布する。

**参考書** 配布プリントをとおして随時紹介する。

**その他** 必要に応じて映像等を使用する。

履修コード	040401
科目名	水文学実習
担当者名	高木 正博

**講義の到達目標(ねらい)** 河川や地下水・湧水などの測水調査をとおして、水循環や水収支を考慮した水文環境の一端を明らかにする。フィールドワークによる水量や水質調査及び採水試料の分析実験に重点をおく。

**講義の内容／授業スケジュール** (1-6) 河川や地下水・湧水の水量・水質などに関する基礎的な学習および調査目的、水域・地点の選定、調査項目、計測器材の特徴と使用方法など。(7-9) フィールドワークによる測水調査。(10-12) 水質分析。(13-15) 調査結果の整理、図表の作成、解析・考察など。測水調査は1, 2回程度予定している。

**準備学習** 授業ではプリントを用意するが、そこに記載されている参考文献を活用して授業の内容を予習・復習しておくこと。特に化学的な内容を理解するための知識を身につけてほしい。

**履修上の留意点** フィールドワーク、実験室での試料分析は原則として週末に行うので、授業時間以外にもかなりの時間を必要とする。

**成績評価の方法** 授業・調査中の実習態度を基礎点(50%)とし、提出物の成果(50%)と合わせて評価する。

**教科書／テキスト** 授業時間にプリントを配布する。

**参考書** 新井 正『水環境調査の基礎』改訂版(古今書院)  
日本地下水学会編『名水を科学する』、『続・名水を科学する』、『新・名水を科学する』(いずれも技報堂出版)  
半谷高久・小倉紀雄『水質調査法』(丸善)  
日本分析化学会北編海道支部『水の分析』(化学同人)  
その他、随時紹介する。

履修コード	039801
科目名	図学実習
担当者名	吉田 健洋

講義の到達目標(ねらい)	地人を対象とする地理学において、その空間表現を視覚化している地図は必須である。地図は、人の水平視野で捉える空間を垂直視野の二次元空間で再現していると言える。この地図の二次元表現を記号化、縮尺化、数値化の観点から理解し地図表現を習得する。
講義の内容／授業スケジュール	○概論 (1回) 地形図について、図学実習について ○図式 (3回) 地形図記号を記号項目ごとに解説し、地形図でこの運用を理解する (地形図作業) ○編集 (3回) 縮小化の制限で行われる編集処理作業 ○投影 (2回) 数値計算による経緯線図の作成 ○数値化 (3回) メッシュ型とベクトル型のデータ作成 ○作図 (3回) デザイン化されたオリジナルマップの作成
履修上の留意点	必ず出席し、課題は期限を守って提出すること。
成績評価の方法	課題成果の内容と小テストで行います。
教科書／テキスト	特定の教科書は使用しない。地形図の購入を指示します。
参考書	利用しやすいデジタルマップや関連ソフトなどは、実習中に紹介します。
その他	定規、色鉛筆、関数電卓やパソコンなどの準備は適宜指示します。

履修コード	040701
科目名	生物地理学
担当者名	清水 善和

講義の到達目標(ねらい)	現在地球上に生存する1000万種を超える生物種は、それぞれが特有の分布をもつ。その分布には現在の環境条件だけでなく、過去の環境変化やそれぞれの種のもってきた進化の道筋が反映されている。本講義では「生物の分布」をキーワードにして、その背景にある生物進化のプロセスや生物と環境との関わり等について、具体的な地域や生物グループを取り上げながら考えていく。また、生物を取り扱う上で必要な遺伝子や分類学の基本的な知識も取り上げ、実際のフィールドワークに役立つように、生物図鑑の検索方法、標本の作り方、野外調査の方法などについても学習する。
講義の内容／授業スケジュール	1章：生物の分布と移動 (1, 2回)、2章：生物分類体系 (3, 4, 5回)、3章：生物進化と進化論、4章：区系生物地理学 (6, 7, 8回)、5章：生態生物地理学 (9, 10, 11回)、6章：系統生物地理学 (12, 13, 14回)、7章：生物の絶滅 (15, 16, 17回)、8章：大陸移動と生物分布 (18, 19, 20回)、9章：氷河期と生物分布 (21, 22, 23回)、10章：大洋島の生物 (24, 25, 26, 回)、11章：人為と生物分布 (27, 28, 29回)、12章：過去を探る方法 (30回)
成績評価の方法	前期のレポート1回、後期の定期試験、通年の出席回数を総合して評価する。
教科書／テキスト	講義内容を文章化した「web版テキスト」(清水執筆)を紹介する。受講者はYeStudyを通じてファイルを自由にダウンロードし、予習・復習に利用できる。
参考書	上記「web版テキスト」で章ごとに参考書を紹介する。
その他	講義に必要な図表等は章ごとに1枚のプリントにして教場で配布する。

履修コード	040901
科目名	測量学
担当者名	田中 靖

講義の到達目標(ねらい)	測量学は、地球表面の任意の点の位置関係を正確に把握する技術を研究する学問である。さらに最近では旧来の「測る」技術にとどまらず、空間データを効率的にマネージメントする技術と合わせて「空間情報工学」としてその範囲を広げている。本講義では古典的な測量方法による地図作成法からGISによる地図作成法までを扱い、国家資格である測量士補を取得するのに必要な知識の習得を目的とする。
講義の内容／授業スケジュール	第1回～第3回：測量の歴史と法律・測量数学 第4回～第5回：地球の姿・簡易測量 第6回～第8回：誤差論 第9回～第10回：地理座標 第11回～第12回：角測量 第13回～第14回：距離測量 第15回～第16回：水準測量 第17回～第18回：平板測量 第19回～第21回：GPS測量 第22回～第25回：空中写真測量・空中写真判読 第26回～第28回：航空機レーザー測量・GIS 第29回～第30回：まとめ・試験対策
履修上の留意点	この講義は、測量士補取得(国家試験免除)のための必修科目である。高校教科書レベル+αの数学の知識(特に三角関数と確率・統計)が必要となるが、復習しながら講義を進めるので、興味を持つ学生は履修して欲しい。高校まで学んできた数学や最新の科学技術が、地理学や我々の生活の中でどのように役立っているかという視点で講義する。
成績評価の方法	定期試験(80%) + 提出課題の評価(20%)
教科書／テキスト	粟津清蔵(監修)、包国ほか(著)『絵とき 測量(改訂3版)』2,940円。オーム社出版局、ISBN: 978-4274208874
参考書	丸安隆和『測量学(上)』3,255円(税込)『測量学(下)』3,360円(税込)。コロナ社 村井俊治『改訂版 空間情報工学』2,400円(税別)。日本測量協会
その他	授業は講義中心に行うが、年間数回の課題実習を行う。



履修コード	032701
科目名	村落地理学
担当者名	高橋 健太郎

**講義の到達目標(ねらい)** 現代社会において、村落には、食料生産のみではなく、環境保全やレクリエーション空間の提供などの多様な役割がある。また、村落は、少子高齢化や産業不振、従来の地域社会の機能不全などの問題を抱える地域でもある。他方、それらの問題を克服するために、地域社会のあり方について再検討されていたり、地域活性化の取り組みも盛んに行なわれている。本講義では、日本と中国の事例を比較しながら、このような村落地域について理解を深める。

**講義の内容／授業スケジュール** 第1回：オリエンテーション、第2～4回：村落のみかたと分類、第5～12回：中山間地域（過疎とその克服、グリーンツーリズム、文化景観と棚田の保全）、第13～15回：民家の地域性、第16～21回：中国の村落（経済格差、戸籍制度、三農問題、民工潮、環境保全、商業的農業）、第22～24回：沿岸村の特徴と変容、第25～27回：都市内部と郊外地域の農地と農業、第28～29回：都市・農村の交流と相互理解、第30回：総復習（試験含む）。

**準備学習** 下記の参考書および授業中に紹介する文献を事前に読むことにより、授業内容に対するより深い理解が可能となる。

**履修上の留意点** 講義内容についての理解の程度を把握するため、頻繁に教場にてレポートを作成し提出してもらう。

**成績評価の方法** 教場レポート（30%）と試験（70%）で評価する。

**教科書／テキスト** 使用しない。授業時にプリントを配布する。

**参考書** 主な参考書は次のとおり。その他は、授業中に随時紹介する。  
 農林水産省編『食料・農業・農村白書』（各年度版）、農林統計協会。  
 宮崎 猛編『グリーンツーリズムと日本の農村』、農林統計協会。  
 中島峰広『日本の棚田』、古今書院。  
 高橋 誠『近郊農村の地域社会変動』、古今書院。  
 河原昌一郎『詳解中国の農業と農村』、農山漁村文化協会。  
 張 玉林『転換期の中国国家と農民』、農林統計協会。

履修コード	041101 041102
科目名	第四紀学
担当者名	鈴木 毅彦

**講義の到達目標(ねらい)** 第四紀とは最近約260万年間（2009年度に、それまでの約180万年前から260万年前へと、第四紀の開始を古くすることすることが正式に決定された）の地質時代をさす。この時代は、地形、気候、動植物、人類などが現在みられる姿となった時代でもある。このような最近の地質時代を理解することは、人類の動向も含めた地球の将来予測につながる。本講義のねらいはこのような問題意識のもとに、第四紀の概要を理解することである。とくに全地球的な規模での現象と日本列島特有な第四紀の諸現象についての理解を深めることに目的をおく。

**講義の内容／授業スケジュール** 講義前半では第四紀の各種基礎的概念を解説、後半では日本列島の第四紀の主要な現象のうち、地形発達、火山活動、第四紀地殻変動などに焦点をあてる。(1-2) 第四紀の概要と学際科学としての第四紀学の特徴、(3) 氷期の認定に関する歴史、(4) 大陸氷床拡大の発達との証拠：ビデオを用いる、(5) 氷河期と氷期の区別：新生代氷河期と第四紀の開始、(6-7) 氷河性海面変化からわかる氷期・間氷期サイクル、第四紀海面変化の復元（日本列島および関東地方を例として、沖積層と更新世海成段丘）、(8-9) 海洋底堆積物、酸素同位体比変化から復元される氷期・間氷期サイクル、(10) 氷期・間氷期サイクルの原因とミランコビッチサイクル、(11) 100-1000年スケールの急激な気候変動：D/Oサイクルと氷床コア研究、(12) 地球上各域における第四紀の気候変化、(13-14) 第四紀の古地磁気編年とレス編年、(15) 数値年代と放射年代、(16-17) 第四紀の火山活動、(18-20) 火山噴火の多様性、(21-24) 第四紀のテフロクロノロジー：原理、日本列島および関東地方における応用例、(25-28) 第四紀地殻変動、活断層、山地形成、日本列島および関東地方における事例、(29-30) 第四紀における自然環境と人類の歴史

**履修上の留意点** 講義中に高校等で使用する地図帳を用いることがあるので、常に持参してもらいたい。

**成績評価の方法** 主には前期末のレポートと後期末の筆記試験で評価する。追試験は実施しない。

**教科書／テキスト** 教科書は特に指定しない

**参考書** 参考書として、日本第四紀学会編『デジタルブック 最新第四紀学』、町田ほか編『第四紀学』（朝倉書店）、日本第四紀学会編『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』（古今書院）、成瀬『第四紀学』（岩波書店）をあげる。それ以外は講義中に紹介する。

**その他** 授業の方法：講義、なお時間等が許せば日帰りの野外巡検を行う予定である。

履修コード	033301
科目名	地域概論
担当者名	櫻井 明久

**講義の到達目標(ねらい)** この授業では、地理学における「地域」とは何かを検討し、「地域」を説明する地誌学を系統地理学と対比しながら考察し、それらの調査研究方法について考える。その際、ドイツ農村の農家と集落レベルの調査事例を丁寧に検討し、その後、地方都市とその周辺、大都市圏、国というスケール、ヨーロッパという超国家スケールにおける地誌へと広げたい。さらに地理教育における地誌学習のあり方についても考察する。なお、事例の内容説明よりも、地誌的調査の調査方法の習得に力を入れたい。

**講義の内容／授業スケジュール** 地域とは何かについてまず大枠（地域の概念、地域区分・地域分類、地域構造、地域の空間構造・階層性とスケール）を考え（1～3）、それらの考え方にに基づき、具体的に農村地域を対象に、考察単位としての個人や農家と考え（4～7）、集落スケール（8～15）、地域スケール（15～20）、大都市圏、国（21～23）、超国家（24～）とスケールを広げながら地域の見方と地誌のあり方を積み上げていく形で追求したい。

**履修上の留意点** 出来る限り、授業の最後に疑問や質問をミニ教場レポートに書いてもらい、次時にはその学生の疑問や質問を取り上げるつもりであるので、授業に積極的に参加するよう望みたい。したがって、欠席も、遅刻も厳しく取り扱う。夏休みには、考察の基準となるような「地域」として、各自にとっての身近な地域について、新旧版の地形図を使ってレポートを作成してもらおう。レポートの締め切りも厳守のこと。

**成績評価の方法** 出席とミニレポート50点、夏休みレポート30点、試験20点といったバランスで評価したい。

**教科書／テキスト** 櫻井明久「西ドイツの農業と農村」古今書院（購入する必要はない）  
高橋伸夫/中村和郎他編「地理学講座1～6」古今書院（購入する必要はない）

**参考書** 適宜紹介する。

履修コード	041601
科目名	地域環境演習 C
担当者名	高木 正博

**講義の到達目標(ねらい)** 主として地域の水環境や水利用に関する研究分野を対象とする。授業では関連する文献地図資料の収集・整理を行い、学術研究論文を読み、その内容を理解するとともに、研究・調査の方法、結果・考察から論文の書き方などを具体的に学ぶことを目的とする。受講者全員に年2回以上、論文の紹介と研究テーマに関する口頭発表を義務づける。フィールドワークについては、その企画、調査項目の検討、調査地域の選定を経て現地調査を実施し、結果をまとめる。受講者は本授業をとおして、卒業論文を意識した研究テーマを探してほしい。

**講義の内容／授業スケジュール** 前期は、現在関心をもっている研究テーマについて文献・資料から研究発表を行う。また、地形図や空中写真、衛星画像等の作業をとおして主題図の作成作業を伴う(1-15)。発表テーマ・発表日は事前に決めておき、当日は発表者がまとめたレジュメをもとに、全員でその内容を討論する。関連するデータの解析・図表の作成実習や現地調査・研究方法についての検討もおこなう。  
後期も同様に発表形式をとるが、原著論文の紹介に重点を置く(16-30)。論文は各自の研究テーマと関連したものを選択し、その内容および各自のテーマとの関連性について詳しく説明する。または、夏休みの調査結果などを報告してもよい。後期はフィールドワークを実施するので、具体的な水文・地形・植生等の調査項目の検討や、現地での景観・聞き取り調査などの項目選定も考える。

**準備学習** 研究発表の授業ではレジュメを作成するが、そこに記載されている参考文献にも注目して、内容の理解を深めるとともに、疑問点を明らかにして次回の授業にて質問すること。課題として、地形図等を利用した各種主題図の作成を伴う。

**履修上の留意点** ①受講者は日頃から積極的に発表・討論に加わる意識が求められる。②発表者は無断で欠席しないこと。③この科目を履修するためには、学科主催の振り分け(4月5日)に必ず参加すること。

**成績評価の方法** 口頭発表の内容(50%)、レジュメ(レポート)の内容(30%)、討論への参加状況など平常点(20%)を合わせて評価する。

**参考書** 肥田 登『秋田の水—資源と環境を考える—』無明舎出版、2800円

履修コード	039001
科目名	地域環境調査法(現地調査含む) A
担当者名	江口 卓

**講義の到達目標(ねらい)** フィールドワークによる環境研究の基本的な流れを理解し、フィールドワークの方法を習得することを目標とする。具体的には、フィールドワークの企画、関連資料の収集整理、調査項目の検討、フィールドワークの実施、フィールドワークのまとめ、報告書の作成という一連の流れを経験する。

**講義の内容／授業スケジュール** 第1回-5回: 調査地域に関連する文献の収集・講読  
第6回-7回: 調査テーマの設定  
第8回-13回: 地形図、空中写真および気候データの利用と作業  
第14回-15回: フィールドワークにおける調査項目の検討  
フィールドワークの実施: 気候調査と気候に関する景観調査を植生調査や聞き取り調査によって行う。  
第16回-19回: 調査のまとめ  
第20回-22回: 調査結果の地図化と解析  
第23回-26回: 調査結果の発表  
第27回-30回: 報告書の作成

**履修上の留意点** この科目を履修するためには学科主催の振り分け(4月5日)に必ず参加しなければなりません。

**成績評価の方法** レポートおよび出席状況を総合して評価する。

履修コード	039201
科目名	地域環境調査法(現地調査含む) C
担当者名	田中 靖

**講義の到達目標(ねらい)** フィールドワークと文献調査の両面から地域環境調査のノウハウを学び、その作業を通して風景をサイエンスの目で見る力を養う。

**講義の内容／授業スケジュール** 第1回~第2回: オリエンテーション(フィールドワークの企画)  
第3回~第10回: 文献調査、発表会  
第11回~第15回: 調査実習のための技術習得(水質計測、測量、写真判読、地図作成、GISなど)  
【現地調査: 予定地は石垣島。6月下旬に3泊4日の日程で実施する予定。】  
第16回~第30回: 調査結果の発表と報告書の作成。

現地調査では、テーマを決めて班別での調査実習を行う。主に取り扱うテーマは、①井戸および河川水の水質調査、②ノッチや津波石に着目した海岸地形の調査、③白保サンゴ礁におけるサンゴ分布調査、④轟川流域における赤土の堆積状況と赤土の流出対策に関する調査、⑤島外からの移住者による文化への影響に関する聞き取り調査、など。

**履修上の留意点** この科目を履修するためには学科主催の振り分け(4月5日)に必ず参加しなければならない。

**成績評価の方法** 調査に取り組む姿勢、発表、最終レポートのレベルで総合的に評価する。定期試験は実施しない。

**教科書／テキスト** 適宜紹介する。

**参考書** 適宜紹介する。

履修コード	039401
科目名	地域環境調査法（現地調査含む）E
担当者名	平井 幸弘

**講義の到達目標(ねらい)** 地理学の研究でとくに環境問題に関するテーマを掲げる場合、現場を訪ねることが必要不可欠である。その場合、具体的なテーマの設定、事前の文献・地図・史資料の収集整理、現地での調査項目の検討、テーマに関する課題の分析と考察、レポートのまとめなど、しかるべき調査方法を習得しておくことが重要である。本授業では、夏期休暇中に数日間のフィールドワークを実施するが、前期はそのフィールドワークの企画を、後期はフィールドワークのまとめを中心に、上記の各点について学ぶ。

**講義の内容／授業スケジュール** 第1回 イントロダクション：フィールドワークの意義  
 第2回～第6回 基礎的な文献・地図・史資料の収集と紹介  
 第7回～第10回 地形図、空中写真、衛星画像の利用と作業を通しての地域分析  
 第11回～第15回 現地調査に向けての各自のテーマの設定と発表  
 (夏季休暇中) 現地調査：新潟県・佐渡島の加茂湖を中心に、湖およびその周辺地域において、湖をめぐる開発や環境問題、自然再生などに関して、地形調査、水文調査、植生調査、景観調査、またしかるべき機関、団体、個人を対象に聞き取り調査や質問票調査を実施する。  
 第16回～第19回 調査結果の整理・分析と発表  
 第20回～第25回 各自の課題に沿った考察と発表  
 第26回～第30回 総合討論と調査報告書の作成

**準備学習** 自らのテーマを見出し、積極的に現地調査に参加することが望まれる。  
**履修上の留意点** この科目を履修するためには、学科主催の振り分け（4月5日）に必ず参加しなければなりません。  
**成績評価の方法** 授業および現地調査への出席・参加状況、1年を通して各自のテーマへの取り組み、発表、レポートなどを総合して成績評価する。  
**教科書／テキスト** 特に指定しない。  
**参考書** 授業時に適宜紹介する。

履修コード	038701
科目名	地域計画論
担当者名	原 昭夫

**講義の到達目標(ねらい)** 人々の暮らしの場、労働の場、憩いの場などである「地域」はどのような要素から成り、それらがどのように関係づけられているのか、それを誰がどのような手法や技術でつくり、維持・保全しているのか、それをどのように計画していったらよいのか、そこでの市民の役割は何なのか、などを考える眼と力を養う。

**講義の内容／授業スケジュール** 全体を次のような4つのステージに分け、「地域」を「知る」ことから「計画」することへ向かう。  
 (IV. の「計画」の段階では、受講者の参加状況（人数、定刻出席等）および興味・度合等を勘案して共同作業（ワークショップ、演習形式）で行う場合もある。)

- I. 地域を知る／4月～5月
  - ・地域の構成要素、量、規模、配置、分布など地域の現状を把握する。
  - ・地域の特性や差異が何によって現れるか、また地域の成立経過を知る。
- II. 地域の課題を見つける／6月～7月
  - ・地域にはどのような課題や可能性が顕在・潜在しているのかを見つける。
  - ・それらの課題はどのような原因や背景によってもたらされているのかを考える。
- III. 課題の解決策を考える／9月～10月
  - ・上記の課題を解決・改善していくには、どのような方策があるのかを考える。
  - ・課題解決の手法・技術・プログラムをどう組み立てるのかを考える。
- IV. 解決策を計画・政策として提案する／11月～12月
  - ・上記I～IIIのステージをふまえて地域の改善策・将来構想を考える。
  - ・それを現実的・具体的な計画・政策としてまとめ、提案する。

**準備学習** ・地域計画、まちづくり、都市政策に単一の正解はない。さまざまな代替案の中から現状での最適解が求められる。そのためまず自らのまちをしっかりと歩き、しっかりと見ること。現地・現場を見る眼を鍛えておいてほしい。  
 ・世界の事情、日本の社会状況、自らの地域の現状をしっかりと把握しておくこと。  
**履修上の留意点** ・何故自分はこの大学を選択し、この学科を学び、何を得て、何になろうとしているのか、改めて自らに問うて欲しい。（それをしっかりとやれば遅刻、私語、携帯の授業中使用、睡眠などは出来ない筈だが、いかがか。）  
**成績評価の方法** ・いわゆる「試験」はやらない。上記各ステージでレポートを数回提出（知識より自分の頭で考えたもの）および出席により評価する。  
**参考書** ・『自治体まちづくり』（原 昭夫／学芸出版社）をテキストとしてタテ系的に用いながら論を進める。  
 ・毎回関連する参考書や文献を提示する。  
**その他** ・上記履修（前）留意点参照。「地域」に関心を持つ諸兄の参加を期待。  
 ・自学科・他学科の計画系科目、フィールドワーク、地域分析手法、地域形成史などは再習しておくことよい。  
**関連リンク** <http://www.komazawa-u.ac.jp/>

履修コード	033351
科目名	地域研究論
担当者名	佐藤 哲夫

**講義の到達目標(ねらい)** この授業は地域研究(エリア・スタディ)の入門的な講義である。例として東南アジア、とくにタイを中心にとりあげる。地理学的視点から地域研究を行う場合には、地誌とともに系統地理学の知識も重要である。地域スケールに留意して、地域区分や地域分類を行うことが出発点となるが、そのためには地域概念の理解も必要である。全体を通して、それらの点についても学ぶ。

**講義の内容／授業スケジュール** 前期は東南アジア全域を対象とした地誌について学ぶ。自然地域の構造や文化地域・経済地域の形成に注目する。後期には、タイを例にして、地球環境問題やグローバル化に関連した、村落や都市の具体的問題を取り上げ、小地域の調査事例を紹介する。授業の進行状況を見て、南アジアの地誌と地域研究についても補足的にふれたい。  
(1~3) 地理と地域研究  
(4~15) 東南アジア地誌  
(16~23) タイの地域調査事例  
(24~30) 南アジアの地誌と地域研究  
なお本年度は、授業の進め方がイレギュラーになるため、第1回目の授業に必ず出席して受講上の注意を聞くこと。

**準備学習** 中学・高校で学習した地理と世界史のなかから、東南アジアや南アジア、東アジアに関する部分を復習しておくこと。とくに地名については地図帳をよく見て、国名と主要都市名、主な山脈や河川、島嶼の名前などを、覚えておくこと。

**履修上の留意点** 第1回目の授業で、より詳細な講義内容とスケジュールについて説明するので、必ず出席すること。

**成績評価の方法** 前期末のテスト、後期の数回のレポートを考慮して評価する。出席回数が3分の2に達しない者には、単位を認定しない。

**教科書／テキスト** 使用しない。資料は配布する。

**参考書** 矢ヶ崎典隆ほか編著 2007 『地理学基礎シリーズ3 地誌学概論』(朝倉書店) ISBN978-4-254-16818-1

履修コード	034011
科目名	地域調査入門A
担当者名	早船 元峰

**講義の到達目標(ねらい)** 自然と人間のかかわりあいの研究・調査の方法を文献講読や現地調査を通じて修得する。

**講義の内容／授業スケジュール** ・土地利用・治水・利水・産業観光・ビオトープ・地理写真など各人の興味ある分野の論文の内容とその所感の発表  
・埼玉県南見沼低地 他。日帰りを数回予定  
・各種主題図の作成  
・資料集の作成  
・地理写真撮影の技法修得

**履修上の留意点** この科目を履修するためには学科主催の振り分け(4月5日)に必ず参加しなければなりません。

**成績評価の方法** 発表内容、レジュメ、調査に取り組む態度、レポート、出席状況などで評価する。

**教科書／テキスト** 特に指定しない。

**その他** 撮影技法の基本を学ぶため、デジタルカメラの他、フィルムタイプの中判カメラやビューカメラも使用する。

履修コード	034031
科目名	地域調査入門C
担当者名	平井 幸弘

**講義の到達目標(ねらい)** 私たちを取り巻く自然環境や環境問題について、具体的に何に注目し、どのように調査したらよいかについて、主として自然地理学的な視点から学ぶ。ある地域を事例として実際にそこに出かけ、現地で観察・測定、聞き取り・アンケート、また調査実施後に各種分析等を試み、簡単なレポートにまとめ、発表する。

**講義の内容／授業スケジュール** 第1回 イントロダクション: フィールドワークの意義  
第2回~第4回 地域調査のための基礎的な文献・地図・史資料の収集  
第5回~第7回 資料・文献をもとに野外調査での各自の課題設定  
第8回 フィールドワーク(現地調査): 関東甲信越地方の湖沼または内湾域のうち、1か所を対象として、1泊2日または2泊3日で実施する。  
第9回~第11回 現地調査で得たデータ等の整理とまとめ  
第12回~第15回 現地調査のレポート作成と発表

**準備学習** 自らのテーマを見出し、積極的に現地調査に参加することが望まれる。

**履修上の留意点** この科目は、3年の演習や調査法をより効果的に学ぶために、おもに2年生用に設けられた入門科目です。よって振り分け時には2年生を優先します。もし人数が多数になった場合は3・4年生の希望がかなわないことがあります。この科目を履修するためには学科主催の振り分け(4月5日)に必ず参加しなければなりません。

**成績評価の方法** 出席状況、授業中の発表、フィールドワークへの参加状況、提出されたレポートなどを総合的に判断して評価する。

**教科書／テキスト** 特に指定しない。

**参考書** 平井幸弘(2005)『水辺の環境ガイド歩く・読む・調べる』古今書院

履修コード	039621
科目名	地域調査入門E
担当者名	佐藤 哲夫

講義の到達目標(ねらい)	この授業では、地図や空中写真の利用、現地での土地利用や景観の観察を中心として、現地調査の方法について学ぶ。
講義の内容／ 授業スケジュール	沖縄県那覇市の調査を行う。グループごとに分かれてテーマを決めて調査する。授業の内容とスケジュールは以下を予定しているが、作業状況を見て調整しながら進める。 (1～5) 地形図や空中写真を用いた室内作業 (6～10) 参考文献の要旨発表など、事前調査の報告 (11～15) 現地調査結果の報告とまとめ 演習・調査法振り分け日(4月5日)に、調査予定日より詳細な進め方について連絡する。
準備学習	中学や高校の地理の教科書のうち、国土地理院発行の地形図を使った作業に関する部分について、よく復習しておくこと。
履修上の留意点	この科目は、3年の演習や調査法をより効果的に学ぶために主に2年生用に設けられた調査の仕方に関する入門科目です。よって、できるだけ2年生に履修してほしい科目なので、振り分け時に人数が多数になった場合は、3・4年生の希望がかなわない場合もあります。学科主催の説明会(演習・調査法振り分け、4月5日)に遅れた者の履修は認めません。
成績評価の方法	出席状況、発表内容、現地での調査の積極性、調査報告の内容などを総合的に評価する。

履修コード	039631
科目名	地域調査入門F
担当者名	高橋 健太郎

講義の到達目標(ねらい)	農山村地域の生活や産業、地域社会のあり方について理解を深め、さらに聞き取りや資料収集の手法の基礎を身につける。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回：オリエンテーション、第2～5回：村落地理学関係の研究論文の輪読と発表、第6～9回：地域調査の準備、第10回：地域調査(合宿)、第11回～15回：調査結果のまとめと調査レポートの作成。 地域調査は、農山村地域において3泊程度で実施する。主に次のような調査テーマが考えられる。農山村地域の生活文化の変容、農林業の取り組み、地域自治と広域連携、都市・農村交流など。選択した調査テーマにしたがって、調査計画の立案から調査項目の検討、調査レポートの作成までを行なう。
準備学習	文献資料の収集や講読、調査項目の設定など地域調査の準備は、主に課外時間に各自で進める必要がある。
履修上の留意点	この科目は、3年の演習や調査法をより効果的に学ぶために、おもに2年生用に設けられた入門科目です。よって振り分け時には2年生を優先します。もしも人数が多数になった場合は3・4年生の希望がかなわない場合があります。また、この科目を履修するためには学科主催の振り分け(4月5日)に必ず参加しなければなりません。
成績評価の方法	出席状況、授業中の発表内容、討論への参加状況、地域調査の活動状況、調査レポートの内容で評価する。

履修コード	035801
科目名	地域文化演習C
担当者名	土'谷 敏治

講義の到達目標(ねらい)	地理学の調査・研究においては、もちろんフィールドワークは最も重要なものの1つであるが、事前に関連する既存の文献をよく読んだ上で、まず調査・研究の手順を学んでおく必要がある。それを踏まえて、調査の目的・調査地域・調査スケジュールなどフィールドワークの企画を行うとともに、地図・統計資料等を用いて調査地域の特色を把握し、フィールドワーク実施後は、収集資料を整理・分析し、調査結果をまとめることが必要である。このような視点から、演習という授業の性格上、本授業ではとくにフィールドワークの前に行うべき、文献検索・文献研究、調査・研究の方法の学習に重点を置く。その上で、フィールドワーク前後の準備段階から最終的な報告書作成までの総合的能力を身につけることを目的とする。本授業では交通や都市の問題を中心に取り上げ、当該地域の地域構造、経済活動、土地利用、人口の分布とその変化、地域住民生活や地域独自の文化などを主要テーマとする。調査の方法については、聞き取り調査、景観観察、アンケート調査などを中心に学習する。
講義の内容／ 授業スケジュール	下記のようなスケジュールに沿って授業を行う。 1. 卒業論文等で、フィールドワークで取り上げようとするテーマに関連する論文を読み、その内容をまとめて発表する(第1～10回)。 2. 研究対象地域を選択し、関連文献・地図・各種資料などによって、対象地域の特色について分析を行いレポートにまとめる(第11～15回)。 3. フィールドワークを前提として、調査目的、調査項目、調査地域を検討する(第16～18回)。 4. フィールドワークを前提として、調査内容や調査スケジュールを決定する(第19・20回)。 5. フィールドワーク(現地調査)。 6. 調査結果の整理・分析、図表化、地図化を行う(第21～25回)。 7. 調査結果をレポートとしてまとめ、調査結果を発表し全員で討論する(第26～28回)。 9. 各自のレポートをまとめて、報告書を作成する(第29・30回)。 10・11月に、交通問題をテーマとして見学とフィールドワークを予定している。
準備学習	授業前に発表内容を整理し、他の受講者によくわかるように発表用の資料を作成する。
履修上の留意点	毎回の出席は不可欠であり、出席率が8割を下回った場合は、単位を認定しないことがあり得る。また、積極的な討論への参加、事前・事後の発表、レポートの提出、報告書作成作業への参加も必要である。 この科目を履修するためには学科主催の振り分け(4月5日)に必ず参加しなければならない。
成績評価の方法	文献のまとめ方、事前調査のレポート、フィールドワークに参加した場合の調査状況、調査結果の整理・分析と口頭発表の内容、討論・報告書作成作業への参加状況、授業への出席を総合して評価する。
教科書／テキスト	とくに指定しない。

履修コード	035901
科目名	地域文化演習 D
担当者名	橋詰 直道

講義の到達目標(ねらい)	人文地理学の論文レビューを通して得た地域調査の課題を、フィールドワークによって検証することで、地域調査の方法と地域のとらえ方について学ぶ。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期は人文地理学に関する課題論文をレビュー発表することで地域調査の課題を学び、フィールドワーク（野外調査）の企画と調査項目の検討を行う。フィールドワークは関東甲信越の地方都市を中心に行う。まず、調査対象地域に関する文献・地図・資料の収集整理および地形図を利用した作業を行い、具体的な調査テーマの検討を行う。後期のフィールドワーク（3泊4日）では、景観調査、土地利用調査及び聞き取り調査を中心に地域調査を行い、地域の経済活動、社会生活などの実態調査の手法を学ぶ。調査の結果は地図化すると同時にデータの集計・分析を行い、報告書としてまとめる。
履修上の留意点	論文レビュー発表だけでなくフィールドワークとその成果のまとめ、報告書作成へも積極的に取り組む学生に限る。 この科目を履修するためには学科主催の振り分け（4月5日）に必ず参加しなければなりません。
成績評価の方法	4月～1月までの授業への出席状況、文献レビュー発表、フィールドワーク及び報告書の作成への参加姿勢などを総合的に評価する。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	梶田真・仁平尊明・加藤政洋編「地域調査とはじめ」ナカニシヤ出版、¥2800

履修コード	033601
科目名	地域文化調査法（現地調査含む）C
担当者名	小田 匡保

講義の到達目標(ねらい)	1. 人文地理の諸テーマについて地域調査の経験をする。 2. 収集した資料を、体裁の整ったレポートにまとめる練習をする。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期は、文献・地形図・地域統計（人口・農業・商業・交通・観光・宗教等）などの資料を収集して分析する。その後、現地調査での調査項目を最終決定し、現地調査の方法を具体的に検討する（調査先との事前のやり取りを含む）。 9月下旬（予定）の現地調査では、聞き取り調査・アンケート調査・景観観察調査を中心に行なう。その後、集まった資料を分析・地図化して、最終的な報告書をまとめる。
履修上の留意点	体裁・内容の不十分な報告書原稿は、現地の方に送って見ていただいても恥ずかしくないよう、何度でも修正してもらおう。修正する教員にとっても大変な作業であり、受講生も頑張ってください。 この科目を履修するためには学科主催の振り分け（4月5日）に必ず参加しなければなりません。
成績評価の方法	成績評価は、授業の出席状況、現地での調査態度、提出されたレポート・報告書原稿の内容などを総合して判断する。
教科書／テキスト	使用しない。
参考書	授業中に指示する。
その他	調査地は長崎県を考えている。詳細は4月の振り分け時に発表する。

履修コード	033701
科目名	地域文化調査法（現地調査含む）D
担当者名	櫻井 明久

講義の到達目標(ねらい)	この授業では、地理学における「地域」とは何かを検討し、その「地域」を語る地誌学、そして地誌学的研究の方法について、現地調査を中心として、実習を行いながら考える。現地調査地域は未定であるが、農村部を含む中小の地方都市で、4泊5日程度を考えている。
講義の内容／ 授業スケジュール	地域とは何か、地誌とは何かについて、まず大枠を考え、野外観察や野外調査の方法の基礎（研究目的の設定、研究計画の策定、文献・地図・統計資料の収集、調査項目など現地調査の設計）を学ぶとともに（1～5）、そこで学んだ方法を用いて世田谷周辺で土地利用や景観調査を試みたい（6～12）。後期には、前期の訓練成果をもとに、ある地方都市とその周辺地域で現地調査を実施し、地形図や旧版地形図を利用して社会経済的な地域の変化を読み取ったり、聞き取り調査や質問紙調査を試みるなどして、その調査結果をまとめる方法を実践的に学び（統計図表の作成、統計地図・地図作成、レポート作成など）、その地域を描くことに挑戦したい（13～27）。
履修上の留意点	この科目を履修するためには学科主催の演習・調査法振り分け（4月5日実施予定）に必ず参加すること。また、「地域概論」を履修済みであることが望ましい。 なお、実際に調査設計し、大学周辺や現地へ向かって調査実習するので、参加が不可欠である。また、その過程では、課題に沿って疑問や質問を仲間同士でどンドンぶつけ、討論するなどして、問題を絞ったり、解決方法を考え、資料を収集するので、積極的に参加するよう望みたい。
成績評価の方法	平常点（40点）と発表・レポート（60点）といったバランスで評価したい。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	033801
科目名	地域文化調査法（現地調査含む）E
担当者名	須山 聡

講義の到達目標(ねらい)	人文地理学的課題に基づいたフィールドワークの企画から、調査の実施、および報告書の作成にいたる一連の過程を修得し、卒業論文にまごつかないで取り組めるようにする。
講義の内容／授業スケジュール	奄美大島での現地調査実習と調査報告書の作成を行う。現地調査は6月下旬、または7月上旬に実施する。前期は調査課題の設定、文献の講読、資料収集、現地調査計画の立案と調査項目の検討、調査準備に費やされる。地形図や空中写真を用いた事前作業がこの過程でなされる。調査対象は、都市・集落・地域社会・産業・人口・文化・観光などさまざまである。受講者の関心に沿ったテーマを設定したい。現地での調査では、土地利用調査・景観調査・聞き取り調査・質問紙調査など、多様な手法が課題に応じて選択される。現地調査の後、前期中にはフィールドノートをもとめ、報告書に記載する素材を整理する。後期は調査で得られた成果をもとに報告書を執筆・作成する。そのためには地図化のスキルを身につけ、現象を分析するための理論や手法を文献講読によってさらに学ぶ必要がある。
準備学習	自分が研究してみたい内容を普段からよく考えておいてほしい。
履修上の留意点	出席をとったりはしないが、ぼんやりしているとついてこれなくなる。この科目を履修するためには学科主催の振り分け（4月5日）に必ず参加しなければならない。前期開講の地理学特講Ⅱをあわせて受講することが望ましい。
成績評価の方法	授業への取り組みの積極性、および調査報告書の完成度により評価する。
教科書／テキスト	とくに指定しない。
参考書	平岡昭利編『離島研究Ⅰ～Ⅳ』海青社。
その他	亜熱帯の環境下において、本土では経験できないさまざまな現象に巡り会うことができる。しかし、だからといって物見遊山で終わらせることなく、地域を観察する目とスキルを身につける機会として、真剣に取り組んでほしい。
関連リンク	<a href="https://koneco.komazawa-u.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00401A.jsp">https://koneco.komazawa-u.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00401A.jsp</a>

履修コード	033901
科目名	地域文化調査法（現地調査含む）F
担当者名	高橋 健太郎

講義の到達目標(ねらい)	農山村地域の生活や産業、地域社会のあり方について理解を深め、これらに関する資料分析とフィールドワークの手法を身につける。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：オリエンテーション、第2～6回：村落地理学関係の研究論文を輪読し農山村地域の社会生活や経済活動について理解を深める、第7～8回：フィールドワークの企画、第9～11回：文献、地図、史資料の収集と整理、第12～15回：地形図の利用と作業、第16～17回：統計資料の分析、第18回：調査項目の検討、第19～20回：フィールドワークの実施、第21～22回：フィールドワークの報告と討論、第23～30回：フィールドワークのまとめ（調査報告書の作成）。フィールドワークは農山村地域において3泊4日で実施し、景観調査、土地利用調査、聞き取り調査、質問表調査等を行なう。農山村の地域文化や地域社会の維持と変容、農林業などの経済活動の取り組み、都市・農村交流などの調査テーマについて、資料収集やフィールドワークの企画から調査報告書の作成までを行なう。
準備学習	研究論文の講読やフィールドワークの準備、調査報告書の作成には、多くの課外の作業が必要である。
履修上の留意点	この科目を履修するためには地理学科主催の振り分け（4月5日）に必ず参加しなければなりません。また、本科目のテーマへの理解を深めるため、「村落地理学」を未履修の人は、今年度に履修のこと。
成績評価の方法	授業への出席状況、授業中の発表内容、討論への参加状況、フィールドワークでの活動状況、調査報告書の内容で評価する。

履修コード	040501
科目名	地球物理学
担当者名	柳田 誠

講義の到達目標(ねらい)	この講義では、地球表面で起こるさまざまな現象を地質学、地形学、地球物理学的な立場から理解できるようにする。そのために地球の深部、浅部の構造や地球の歴史および地質や地形についても知識を説明する。そして、これらの知識を踏まえて将来の地球表面の変化を考えてゆく。
講義の内容／授業スケジュール	前期は1地球の姿と形、2地球の内部構造、3地球の年代と歴史、4大陸移動説とプレートテクトニクス、5海底の古地磁気、6地震と火山の分布、7三種類のプレート境界、8弧状列島、後期は9中央海嶺（海底の山脈）、10伊豆半島の衝突、11地震活動、12活断層、13地震予知、14山はどうしてできたか、15アイススタシーによる隆起、16火山活動と火山の地形、17第四紀と未来の予測
履修上の留意点	受講生は地形学と第四紀学の講義を履修するか単位を取得していることが望ましい。
成績評価の方法	成績は授業中に提出してもらったレポートと学期末の試験で評価する。出席は必ずしも重視せず、地球物理学の内容を自分の知識として理解できているか、という点で評価する。
教科書／テキスト	指定しない。プリントを配布する。参考書はそのつど紹介する。
その他	普段の授業中、あるいは授業後の活発な質問、議論を期待する。

履修コード	039901 039902
科目名	地形学
担当者名	平井 幸弘

**講義の到達目標(ねらい)** 私たちが今生きている社会において、ある「地域」を理解し、そこでの様々な開発や環境問題、あるいは災害などを的確に理解し、さらに適切な対応策を講じるためには、その場所がもっている自然的諸条件の特徴を明らかにしておくことが、まず重要である。この講義では、そのような自然的諸条件のなかで、「地域」の場の条件となっている様々な地形について、地形発達史的側面(おもに前期)と地形環境誌的な側面(主に後期)の両方から理解し、様々な環境問題について学び、その解決策についても考えたい。

**講義の内容／授業スケジュール** 前期は、主として地形発達のバックグラウンドについて学ぶ。  
 第1回 イントロダクション:「日本三景」と地形学  
 第2回～第5回 気候変動  
 第6回～第9回 海水準変動  
 第10回～第12回 地殻変動  
 第13回～第15回 火山活動  
 後期は、前期で学んだことを踏まえて、関東平野の地形発達と地形誌について学ぶ。  
 第16回～第19回 利根川上流域の火山活動と地形発達  
 第20回～第23回 中流域の関東造盆地運動と平野の地形発達  
 第24回～第27回 下流沖積低地における海面変動と低地の地形発達  
 第28回～第30回 関東平野の環境問題とまとめ

**履修上の留意点** 現実の様々な環境問題に、広い視野から関心を持ち学ぼうとする意欲を期待したい。  
**成績評価の方法** 出席とレポート及びその発表。受講生が多数の場合は試験を行う。  
**教科書／テキスト** とくに指定しない。  
**参考書** 貝塚爽平ほか『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』(東大出版会)2000年  
**その他** 高校で使う程度の地図帳(二宮書店や帝国書院発行のものなど)と12色の色鉛筆を用意することが望ましい。

履修コード	040001
科目名	地形学実習
担当者名	清水 長正

**講義の到達目標(ねらい)** 地形とは簡単に言えば地べたの形のこと。我々はこの地形上で活動し生活しているのだが、最近ではアーバンライフが定着したせいか、地形を見る目が一般に退化していると言わざるをえません。いわんや地理学科の学生までも地形の見方が苦手?。環境・文化を問わず地理的現象の大半は地形上に立脚しているのですから、地理学を勉強した中で地形のことやその調べ方も少しは知っておこうよ、というのがこの実習の目標です。さらに地形を観ることによって、その土地が地震や洪水などの災害の度合いの予測評価も可能なので、これは一生役にたつワザになるかもしれません。

**講義の内容／授業スケジュール** 実習の内容として、空中写真判読、現地調査に重点を置きます。空中写真判読は、各種地形形態の写真上での把握のこと。難しそうに思うかもしれませんが、まずやってみることが肝心で、あとは「習うより慣れる……」でしょう。現地調査については、休日を利用した半日2回程度と、夏休み前半に1泊2日程度の巡検を行います。現地における地形の実測と、地形を構成する物質(とくに第四紀地質)の露頭調査などもやってみましょう。

**履修上の留意点** 地形学、地球物理学、第四紀学などの地形に関する講義は、同時に履修することが望ましいでしょう。また、空中写真実体視については経験済みの人も多いでしょうが、もう一度、コツを手ほどきします。  
**成績評価の方法** 空中写真判読図・巡検レポートなどにより評価。  
**教科書／テキスト** テキストは使用しない。  
**参考書** 参考書は実習中に指示します。  
**その他** 巡検の地域や日程など、受講する学生と相談して決めます。

履修コード	038901
科目名	地図学
担当者名	野々村 邦夫

**講義の到達目標(ねらい)** 地図は、地域の特性の科学的な調査、分析、究明、解説、広報等を行うために必要不可欠なツールである。このような観点に立ち、国土地理院発行の1:25,000地形図を中心にそのほかのさまざまな地図を実例として取り上げつつ、地図に関する基礎的な知識と技術を幅広く学び、地図に関する理解と地図を利活用する能力を養う。

**講義の内容／授業スケジュール** 次の事項について、概ねこの順序と回数を基本として授業を行う。  
 【前期】第1～4回:地図の概念(地図とは何か、地図の種類、地図の歴史、地図と空中写真) 第5～7回:地図表現(記号化、誇張と取捨選択、転位と総描) 第8～10回:地形図(地形図の規格、図式、記号と注記) 第11～15回:地図投影法と座標系(地球の形と大きさ、経緯度、地図投影法、水平位置の測量、垂直位置の測量)  
 【後期】第1～2回:地形図の維持管理(修正、旧版地図) 第3～6回:地形図の読図(図上計測、地形、植生と土地利用、都市と公共施設) 第7～9回:主題図(地形分類図と防災用地図、土地利用図、統計地図) 第10～12回:数値地図(ラスターデータ、ベクタデータ、メッシュマップ) 第13～15回:地図の利用(防災、環境、都市、農業)

**準備学習** 授業の後、配布されたプリントを読み返すなどして学習内容を復習すること。また、平素から折に触れてさまざまな地図に接し、それぞれの地図の良し悪し、改善点などを考えてみる。

**履修上の留意点** 講義の内容を鵜呑みにするのではなく、自分なりの考えや意見を持つことを心がけて受講し、その結果を後述する受講報告に反映させること。  
 授業を欠席した場合、または、やむを得ず遅刻または早退した場合は、授業に出席した場合よりはるかに多くの努力を払って自習をし、的確な受講報告を提出すること。

**成績評価の方法** 受講報告の内容と学年末に行う筆記試験の結果とを総合して成績を評価する。

**教科書／テキスト** 特定の教科書は使わない。ただし、駒澤キャンパス周辺、自宅付近、出身地その他どこでもよいから、自分が関心や興味を持つ地域の国土地理院発行1:25,000地形図を最低1枚以上購入し、折に触れてこれを見ること。

**参考書** 参考書、参考文献は、授業の中で紹介する。

**その他** 毎回の授業においてプリント(講義のレジュメ)を配布する。欠席してプリントを入手できなかったときは、事後に出席したときに教員に申し出て受け取る。また、毎回の授業で課題(演習問題、小論文など)を出すので、当日または後日、その解答等を受講報告として提出すること。

**関連リンク** <http://www.jmc.or.jp>



履修コード	042301
科目名	地理学演習
担当者名	江口 卓

**講義の到達目標(ねらい)** 地理学における論文の作成の流れを、卒業論文の作成を通して理解することを目標とする。具体的には、各自が卒業論文の調査結果を発表し、全員で討議を行うことによって、各自の卒業論文の内容を深めることが目標である。

**講義の内容／授業スケジュール** 演習では、卒業論文の作成のために観測や聞き取りなどによって収集したデータや気候データを地域性に着目して解析した結果を各自発表し、全員で討議する。  
具体的なスケジュールは以下の通りである。  
第1回-3回：卒業論文の方針発表  
第4回-10回：文献発表  
第11回-15回：中間報告と夏季調査の計画  
第16回-20回：夏季調査の報告  
第21回-25回：中間報告  
第26回-30回：最終報告

**成績評価の方法** 発表の内容と出席で評価する。

履修コード	036401
科目名	地理学演習
担当者名	小田 匡保

**講義の到達目標(ねらい)** 1. 卒業論文の作成を通じて、論文・レポートがきちんと書けるようになる。  
2. 人前でわかりやすく発表できる。  
3. 他の人の発表・報告に対して、質問したり、自分の意見を言えるようになる。

**講義の内容／授業スケジュール** 前期：従来の研究例を学習し、自分の卒論の構想について発表する。  
後期：現地調査・データ整理の結果をふまえ、卒論の中間発表を行なう。  
1月：卒論発表会。

**準備学習** 学生の発表が中心の授業科目なので、自分の発表の前には入念に準備をすること（内容だけでなく、レジュメ作成も含めて）。準備をすればするほど、発表者自身のためになる。

**履修上の留意点** 発表の後は、受講者同士で互いにディスカッションをする。素朴な質問でよいから、受講者全員がディスカッションに参加することを期待する。もちろん、担当教員もできる範囲で助言する。就職活動・教育実習などで忙しいだろうが、できるだけ出席して他の人の発表を聞き、討論に参加すること。  
4月最初の授業は、発表スケジュールを決定するので、必ず出席すること。

**成績評価の方法** 成績評価は、出席状況と発表・討論内容を総合して行なう。卒業論文の評価とは別である。

**教科書／テキスト** 使用しない。

**参考書** 授業中に指示する。

履修コード	036701
科目名	地理学演習
担当者名	櫻井 明久

**講義の到達目標(ねらい)** ある地域の事象ないしはある地域の人文地理学的課題について、討論を通じて、その調査方法を考え、資料を集め卒業論文として完成させる。

**講義の内容／授業スケジュール** 前期については課題を解くための方法、野外調査法（研究目的の設定、研究・調査計画）を中心に考える（1～15）。夏休みを中心に各自現地調査を実施し、基礎的な現地調査を行っておいてもらう。後期については、収集した調査結果・資料から説明すること、すなわち説明のための統計資料の加工や表現方法（作図・作表、地図化）について考え、地域構造図の作成などを通じてまとめ方について考察し、論文作成、公開発表を準備させたい（16～）。

**履修上の留意点** 自分の卒論研究について考えるのは当然であるが、中間の研究の討論に積極的に参加することが重要である。そのことによって自分の研究の仕方にも刺激が得られるであろう。

**成績評価の方法** ゼミへの参加の状況と討論への参加の状況、並びに各自の研究への取り組みを総合的に評価する。

履修コード	036301
科目名	地理学演習
担当者名	須山 聡

**講義の到達目標(ねらい)** 卒業論文の作成を指導する。

**講義の内容／授業スケジュール** 毎回1人ずつ進捗状況を発表する。前期はテーマの決定、対象地域・方法・調査計画の立案、予備調査の実施までに到達することを目標とする。テーマは各自の構想を提示してもらい、参加者全員の討論により緻密な内容に仕上げる。もちろんこれらの作業が早く進行すれば、前期中に現地調査やデータの分析にとりかかることも可能である。フィールドワーク主体のテーマを設定した者は、夏休みが勝負となる。後期は収集したデータの分析・整理を前期に立てた予定にしたがって遂行する。その経過は逐次発表し、参加者全員からの意見やサジェスチョンを盛り込み、内容を高度化させる。執筆段階においては、原稿のチェックを随時行う。

**履修上の留意点** 多くの参加者にとって卒論は学校教育の締めくくりとなるものであろう。これ以上「勉強」することはないのであるから、これまで得てきた能力のすべてを傾注されることを望む。就職活動などで4年生は多忙であろうが、中途半端な「やつつけ仕事」として卒論を捉えられることをもっとも危惧する。最初の授業までに卒業論文の構想を立案しておくことを希望する。

**成績評価の方法** 演習であるので、発表内容はもちろんのこと、質疑参加の状況も評価の対象となる。

**教科書／テキスト** とくに定めず、各自に適切なものを紹介する。

**その他** 授業時間内で不足な場合、個別指導を行う。

履修コード	042201
科目名	地理学演習
担当者名	高木 正博

講義の到達目標(ねらい)	フィールドワークに基づく地域調査を重視した卒業論文の作成指導をおこなう。全体としては、1. 適切な論文のテーマを設定すること、2. フィールドワークの企画をすること、3. 研究成果を発表すること、4. 論文作成の具体的な方法を指導すること、などである。 授業では、文献講読、資料の収集・選択・整理、現地調査や主題図作成を課題として指示する。また、年2回の口頭発表とレジュメの作成を義務づける。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期は卒論題目の決定に向けて、各自の研究内容について検討する。(1,2) 卒業論文作成の意義、(3-12) 研究構想と先行研究にかかわる文献地図資料の収集・整理、空間データの解析・衛星画像などの利用による図表の作成、(13-15) 現地調査・研究方法についての検討。 後期は、現地での水文・地形・植生・気候調査や聞き取り調査、文献・資料などから得た結果を整理・考察し、口頭発表する。(16-25) 卒業論文の中間発表。その際、研究上重要と思われる主題図を示す必要がある。(26-30) 卒業論文作成上の諸注意および執筆要領についての指導。
準備学習	研究発表の授業ではレジュメを作成するが、そこに記載されている参考文献にも注目して、内容の理解を深めるとともに、疑問点を明らかにして次回の授業にて質問すること。
履修上の留意点	①調査・研究は、早期に手掛けることが重要である。②授業では積極的に発表・討論に加わってほしい。③授業を欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。
成績評価の方法	口頭発表や討論への参加状況(70%)、課題の提出状況など(30%)を合わせて評価する。
参考書	適宜紹介する。
その他	基本的には教場を使用するが、少人数の時や文献調査が必要な時は教員研究室も使用する。

履修コード	036501
科目名	地理学演習
担当者名	高橋 健太郎

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文の作成を進めながら、地域調査や資料分析、文章執筆の方法を習得し、加えて地域社会を理解する力を身につける。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回：オリエンテーション、第2回：研究論文の検索、第3～6回：研究論文の講読と報告、第7回：研究テーマの設定と研究計画の立案、第8～15回：文献・統計・地図資料の収集と分析、質問調査票の作成、地理写真の理解、夏季休業期間を中心に各自で地域調査、第16～19回：調査結果の整理と分析、第20～24回：調査結果の発表と討論、事象の地図化と主題図の作成、第25～30回：論文執筆、1月下旬：卒業論文発表会。
準備学習	各自で設定した研究計画にしたがって、授業時間外においても資料収集や地域調査の実施、調査結果の分析、論文執筆、発表準備などの作業を進めること。
履修上の留意点	卒業論文作成の相談にはできる限り対応するが、卒業論文は最終的には自己責任で完成させるものであるということを、受講生には認識してもらいたい。
成績評価の方法	授業への出席状況、授業中の発表内容、討論への参加状況、卒業論文発表会での発表内容で評価する。

履修コード	042501
科目名	地理学演習
担当者名	田中 靖

講義の到達目標(ねらい)	地理情報学や自然地理学に関する卒業論文の作成指導。
講義の内容／ 授業スケジュール	4月：研究テーマの設定 5月～7月：共通テーマでの勉強会・巡検など 夏休み前：方針発表会 10月：中間発表会 12月：卒業論文提出・発表会
履修上の留意点	授業以外でもいつでも相談にのります。できるだけ主体的に取り組むこと。
成績評価の方法	平常の研究姿勢で評価する。

履修コード	036801
科目名	地理学演習
担当者名	土谷 敏治

講義の到達目標(ねらい)	3年間に学習した成果をふまえ、各自が卒業論文作成のスケジュールをたて、そのスケジュールにしたがって、卒業論文の目的設定、研究の意義づけ、研究対象地域の選択、資料収集、現地調査、データ整理、分析、図表化、考察を行い、論文を完成させるための演習・指導を目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの学習成果と卒業論文の題目・目的について発表する(第1・2回)。</li> <li>2. 各自の研究の参考となる論文を紹介するとともに、自分の研究の目的と意義、研究対象地域の概要、分析資料・調査方法について発表し、全員で討論する(第3～12回)。</li> <li>3. 夏休み中の研究・調査計画について討論する(第13～15回)。</li> <li>4. 夏休み中に各自が資料収集、現地調査、データの分析を行い、中間報告をまとめる(夏休み中)。</li> <li>5. 研究の中間報告を行い、各自の研究の長所や問題点について討論することにより、今後の研究の方向づけをする(第16～25回)。</li> <li>6. 最終的な分析・研究内容について討論し、卒業論文の完成をめざす(第26～30)。</li> <li>7. 卒業論文の発表会を実施し、討論を通じて全員の研究結果の総括をするとともに、各自が研究成果を自己評価する(1月)。</li> </ol>
準備学習	授業前に発表内容を整理し、他の受講者によくわかるように発表用の資料を作成する。
履修上の留意点	授業の開始時に発表担当者のスケジュールを決定し、毎回1～2名が発表を行い、その内容について全員で討論する。発表のための資料は、事前に作成し、申し出れば必要部数を学科で準備することができる。討論の際の司会・進行役も受講者が交代で行う。このため、毎回の出席がとくに重要である。就職試験、教育実習などでどうしても出席が不可能な日については、事前に本授業専用の欠席届によって、申し出ることが必要である。発表担当日がこれらの日程に重なるときは、他の受講者と発表担当日を交替すること。この授業は、地理学科による担当教員の指定を受けていないと履修できない。
成績評価の方法	発表内容が最も重要であるが、演習としての授業の性格上、出席率、討論への参加や発言回数とその内容を総合して評価する。出席していても発言がない場合は、出席者として認定しない場合もありうる。また、出席率が7割を下回った場合は、単位の認定をしない。
教科書／テキスト	とくに指定しない。
参考書	卒業論文のテーマの選定やスケジュールのたてかた、書式などについては、次の文献が参考となろう。 高橋伸夫・溝尾良隆編『地理学講座3 実践と応用』(古今書院) 正井泰夫・小池一之編『卒論作成マニュアル よりよい地理学論文作成のために』(古今書院)

履修コード	036601
科目名	地理学演習
担当者名	橋詰 直道

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文の作成のための具体的指導を中心に行う。地域調査に基づく実証的研究の具体方法について学ぶ。
講義の内容／ 授業スケジュール	4～5月は、卒業論文の研究テーマ、地域の設定、研究方法、研究計画などについて十分検討した上で、文献・資料調査法や現地調査法についての指導を行う。6～7月は、それまでの文献調査や事前調査などの成果をもとに中間発表会を個人別に実施する。9～11月は、夏休み中およびその後の調査成果をもとにした経過報告会を行い、議論を積み重ねながら、論文の書き方について具体的に指導する。12月論文提出時に不完全な論文は受理しない。その後、内容・構成など書き直しもある。1月には卒論要旨集用の原稿の提出、同要旨集の印刷・製本を行う。1月末に卒論発表会を行う。発表はパワーポイントを使用し、発表会には次期地理学演習(橋詰ゼミ)履修者の3年生も全員参加することになる。
履修上の留意点	卒業論文の提出後、1月に卒業論文要旨集の作成と卒業論文発表会も行うので、積極的な研究姿勢が重要である。
成績評価の方法	授業(卒論発表会を含む)への取り組み方、出席状況などを総合的に評価する。
参考書	正井泰夫・小池一之『卒論作成マニュアル』(古今書院)2,060円
その他	事前に地理学文献データベースを利用した十分な文献(論文)調査が必要である

履修コード	042101
科目名	地理学演習
担当者名	早船 元峰

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文の作成および口頭発表の指導を行う。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1～10)は論文の作成・現地調査・文献資料の収集・整理・写真撮影などの方法について講じる。(11～30)は各自テーマにしたがって調査研究した成果の発表(10回)や関連した論文の内容の紹介およびコメント(10回)をしてもらう。
履修上の留意点	就職活動や教育実習などで多忙であろうが、努めて出席のこと。活発な討論がなされるよう積極的な態度をのぞむ。
成績評価の方法	出席状況・口頭発表・レジュメなどで評価する。

履修コード	042401
科目名	地理学演習
担当者名	平井 幸弘

**講義の到達目標(ねらい)** 自然地理学、とくに地形学およびその関連分野から、各自が自ら興味・関心のあるテーマを発見し、それを調査・分析、さらに考察を加えて、最終的に卒業論文としてまとめるまでの諸段階について、受講生の自主性を重んじつつ、全員参加の発表および討論の場とする。

**講義の内容／授業スケジュール** 第1回 オリエンテーション：卒業論文執筆への心得  
 第2回～第5回 各自のテーマ・調査対象地域の設定と紹介  
 第6回～第9回 基礎的な文献・地図・史資料の収集と整理  
 第10回～第13回 地図・空中写真・衛星画像の利用と作業、統計分析  
 第14回～第15回 夏季の調査計画の検討

(夏期休暇を中心に) フィールドワーク

第16回～第19回 調査結果の整理と発表  
 第17回～第20回 各自のテーマに沿った調査結果の分析  
 第21回～第24回 各自のテーマに沿った考察と議論  
 第25回～第28回 卒業論文全体の取りまとめとプレゼンテーション  
 第29回～第30回 卒業論文要旨集の作成

**履修上の留意点** 自主的にかつ着実に取り組むことが重要。約1週間ほどのフィールドワークは必須。  
**成績評価の方法** 演習への出席および1年を通して各自のテーマへの取り組み状況を総合して成績評価する。  
**教科書／テキスト** 特に指定しない。  
**参考書** 授業時に適宜紹介する。

履修コード	041201
科目名	地理学特講I
担当者名	橋詰 直道

**講義の到達目標(ねらい)** 今日わが国の都市が抱える諸問題について「都市計画と社会資本整備」という視点から考える。ここでは特に、都市生活者のための生活環境整備手法の歴史とその課題について紹介する。

**講義の内容／授業スケジュール** 次の項目を予定している。(1)(2)都市計画(都市計画と地理学・都市計画の概要)、(3)(4)区画整理事業・再開発事業、(5)(6)都市緑地の整備(生産緑地・公園緑地計画と緑地保全)、(7)(8)東京の都市計画史(震災復興計画・戦災復興計画)、(9)(10)日本の住宅開発史(関西及び東京の郊外住宅地開発史)、(11)(12)アメリカの郊外住宅開発史(リバーサイド・ラドバーンなど)、(13)(14)英国の田園都市運動(ガーデンヴィレッジ、ガーデンシティ、ガーデンサブバーク)、(15)まとめ(試験)

**履修上の留意点** 「都市地理学」の単位を取得した後の受講が望ましい。出席状況や授業への参加状況も重視する。毎時間出席をとる(開始後15分以上の遅刻は欠席となる)。  
**成績評価の方法** 定期試験の成績及び授業への出席日数(2/3以上)が基準以上であるかどうかなどを総合的に評価する。  
**教科書／テキスト** 特に定めない。  
**参考書** 越澤明：『東京都市計画物語』(ちくま学芸文庫)1300円、日端康雄：『都市計画の世界史』(講談社現代新書)1000円、その他の参考書や論文は授業で紹介する。  
**その他** 講義は、配布プリントとパワーポイントを利用して行う。

履修コード	035301
科目名	地理学特講II [不定期開講]
担当者名	須山 聡

**講義の到達目標(ねらい)** 離島の地域的特性について講義する。離島地域に対するわれわれの認識はきわめて浅く、また誤解と偏見に満ちている。本講義では、離島の実態を解き明かし、その魅力の一端を紹介する。

**講義の内容／授業スケジュール** おおむね以下の内容で講義を構成する。  
 1 日本の離島の多様性-自然環境と歴史・文化的背景-  
 2 離島の政治的特性-防人の島、軍事の島、領土的意義-  
 3 奄美群島-ヤマトともウチナーとも違う-  
 4 伊豆・小笠原諸島-火山の島、流人の島、クジラの島-  
 5 日本海の離島-漁業と過疎-  
 6 島に暮らすということ

**準備学習** メディアなどで紹介される離島をよく観察しておく。ただし鵜呑みにはしないほしい。  
**履修上の留意点** 地域文化調査法Eの受講者はこの科目を同時に履習することが望ましい。  
**成績評価の方法** 出席回数と授業内に実施する筆記試験によって評価する。  
**教科書／テキスト** 特に指定しない。  
**参考書** 平岡昭利編『離島研究I～IV』海青社。

履修コード	035401
科目名	地理学特講III
担当者名	澤渡 貞男

**講義の到達目標(ねらい)** 文学部地理学科学学生の学問的専門履修科目の応用と実践を意図して通年課程で設置された「特講III」は、観光産業の中核である運輸・宿泊・旅行業に共通する国家資格「旅行業務取扱管理者試験」の受験を目指す学生への補助的講座として設置されたものであり、受験に必要な基礎知識、関連知識の習得を図ることを目的とする。

**講義の内容／授業スケジュール** 管理者試験には総合と国内の区別があり、受験科目は、①旅行業法及びこれに基づく命令についての知識 ②旅行業約款、運送約款及び宿泊約款 ③国内旅行実務(運賃料金、観光地理、旅行実務) ④海外旅行実務(国内と同項目に加え出入国関連法令及び出入国関連手続実務、観光英語が追加される)で、国内は上記①②③科目で例年9月に実施、総合は上記全科目で10月に実施される。これを踏まえ、次のようなスケジュールとする。(1~3)観光・旅行業界の現状と歴史 (4~8)旅行業法 (9~15)標準旅行業約款、国際航空運送約款 (16~19)出入国に関する諸法令 (20~23)航空運送、鉄道、バスに関する諸知識 (24~26)ホテル、レストランに関する諸知識 (27~30)旅程管理業務、旅客サービス業務の実際。これらを理解するために必要な外国事情などは実際の経験をベースにした内容をAVも利用しながら講義する。

**準備学習** 日頃からマスコミの報じる観光、運送、宿泊関係、特に旅行関連のニュースに注意を払い、地理的な位置関係を確認しておくとともに、報道内容についての疑問点を整理しておくこと。また、法律、特に民法についての基本的な考え方を理解し、独特の用語について知っておくこと。

**履修上の留意点** ①業法・約款の理解には観光・旅行業界の現状・現場の理解が不可欠との立場から、冒頭に観光業界の現状・歴史などについて概括的な講義を行うので必ず出席のこと。これに欠席すると以後の講義が理解できなくなるので、この間の欠席者には原則として単位を付与しない。  
②講義で取り扱う範囲が広く、国家試験の全範囲をカバーする時間的な余裕がないので、本講義では、基本的な考え方について理解を深めることとし、受験対策については、通信講座、受験対策講座等により、各自で学習された。(質問に応じ、アドバイスします)  
③講義内容は相互に連動しており断続的な出席では理解が難しいこと、また、観光地域、業務の現状の理解のため、AVを多用するので出来るだけ多く出席すること。欠席した部分は必ず自習しておくこと。

**成績評価の方法** 出席を重視し、レポートと定期試験により評価する。授業態度も加味する。なお、総合／国内旅行業務取扱管理者試験合格者には無条件4単位付与とする。

**教科書／テキスト** 澤渡貞男「海外パッケージ旅行発展史—観光学再入門—」(彩流社 2300円+TAX (ISBN 978-4-7791-1055-9 C-0036) 千代田区富士見2-2-2) なお、上記以外にも必要に応じプリントを配布する。

**参考書** 受験対策用として中央書院編集部「総合又は国内旅行管理者試験合格ハンドブック」2011年版 (2010年版は総合3570円、国内2940円 ISBN978-4-88732-192-2 C3026)  
株中央書院 千代田区猿樂町2-8-11。  
旅行会社の制作する広告宣伝印刷物。国際国内の航空会社時刻表、観光白書。

履修コード	035501
科目名	地理学特講IV
担当者名	山縣 毅

**講義の到達目標(ねらい)** 本講義の目的は、地理学の研究に必要なと考えられる地質学の基礎的知識・技術を学習することにあります。地質学は、岩石・鉱物や地層、化石などから、地球の成り立ちや、過去の自然環境、その環境の決定要因を解明していく研究分野です。そのために、地球自体から様々なデータを読み取っていくことが必要になります。本講義では、その基礎となる、岩石・鉱物の鑑定、地層の観察、地質図の読解などのスキルを修得できるように授業を進めていきます。

**講義の内容／授業スケジュール** **【前期講義】**  
1. 地質学概論 (1, 2回)  
2. 鉱物と岩石の基礎知識 (3, 4回)  
3. 鉱物鑑定法 (鉱物観察の実習、5~8回)  
4. 岩石鑑定法 (岩石観察の実習、9~13回)  
5. 地形立体モデルの作成と地形図の判読 (14, 15回)

**【後期講義】**  
1. 地層・地質構造の基礎知識 (16, 17回)  
2. クリノメーターの使い方 (18, 19回)  
3. 地層の観察法 (日帰り野外実習を含む、20~24回)  
4. 地質図の書き方 (地質図学の実習、25~30回)

**履修上の留意点** 1. 授業は、実習が中心になります。  
2. 毎回、出欠をとります。  
3. 野外実習(一日、日帰り)を、三浦半島城ヶ島で行います。  
4. 受講者数上限は、20名です。これを超える場合は、選抜を行います。

**成績評価の方法** 以下の事項で、成績を評価します。  
・授業の出席状況  
・実習のレポート  
・「城ヶ島東部の地質発達史」についてのレポート

**教科書／テキスト** 小島文兒監修「新訂地学図解」第一学習社 定価800円 ISBN4-8343-4007-4

**その他** 必要な資料は、授業で配布します。

履修コード	041301
科目名	地理学特講V
担当者名	平井 史生

**講義の到達目標(ねらい)** 社会的に関心の高い時事問題を題材とし、現象の空間的な把握や分布図の重ね合わせ等の地理学的手法を用いて分析していきます。卒業論文の主題選定に役立つ話題や切り口を多く提供することをめざしています。また、学生の皆さんと共に講義を創り上げていくスタンスを目標としています。地理学に関する専門的な知識があまりなくても受講はできます。

**講義の内容／授業スケジュール** 参考までに2010年度の題材をお知らせします。2011年度も同様な話題を取り上げます。「スギ花粉の大飛散とその背景」「2007年台風9号」「盛夏の雷雨」「竜巻被害の特徴」「梅雨の特性」「地球温暖化」「梅雨前線と集中豪雨」「南極オゾンホール」「北極海の海水」「ヒートアイランド」「冬季の降雪とスキー場の立地」など。大きな自然災害が発生した場合には速報的にすぐに取り上げる予定です。また、「地理学に関連の深い企業の見学会」「気象観測実習」など、学外で活動する場合があります。選択科目の「気候学」と最も関連が深く、自然地理学的な題材を多く扱いますが、興味の対象を絞り込むわけではなく、時には人文地理学的内容も扱います。夏季課題は「カルトグラム」作成の予定です。

2010年度資料ページ(参考) {<http://www.komazawa-u.ac.jp/~fumio/k2010/yotei.html>}  
 2011年度資料ページ(予定) {<http://www.komazawa-u.ac.jp/~fumio/k2011/yotei.html>}

**準備学習** 講義資料はWEBに公開しているので、自宅にインターネット環境があれば、予習・復習が可能です。

**履修上の留意点** 実作業が多いため、学生諸君にとっては、「かなり面倒な」講座となります。1年間やり通す強い意志が必要です。欠席が多くなりそうな方には向きません。講義はコンピューター教室で実施します。端末台数の制約から履修人員は最大64名となります。作図などの作業を伴う実習の性格の強い科目です。作図作業の成果品は電子媒体での提出を求め、ネットに公開します。不完全な作品については、再提出を求める場合もありますので、中途半端な気持ちで受講しないでください。各提出物については簡単な発表を含み、質問や批判を含めたミニ討論会なども実施します。初回講義の際にこれまでの授業アンケートの結果などを示しますので、履修するかしないかの参考にしてください。

**成績評価の方法** ①作図作業の成果品、②レポート課題、③調査内容の発表、④作図試験、で総合的に評価をします。ウェイトは①40%、②～④各20%です。出席するだけでは単位は認定できません。成果品やプレゼンテーションが重要です。出席点という考え方は持ち合わせていません。出席率が100%でも、成果品の提出や発表が無ければ0点です。なお、前年度の不合格者については、前年度の点数の半分を加算する予定です。過去には2年かけて単位を取得した学生も5～6人います。

**教科書／テキスト** 特に定めません。講義中に資料を配布する場合があります。

**参考書** 必要に応じて講義中に指示します。参考ウェブサイトを示す場合もあります。

**その他** 気象予報士試験の受験を希望している学生には個別に相談のります。ウェブサイトにレジュメを掲載しています。質問・相談等も電子メールで受け付けています。参考までに、履修登録者に対する単位認定者の割合は、86%(2004年度)、92%(2005年度)、83%(2006年度)、83%(2007年度)、85%(2008年度)、87%(2009年度)でした。

**関連リンク** <http://www.komazawa-u.ac.jp/~fumio/k2011/yotei.html>

履修コード	038401
科目名	地理情報論
担当者名	王尾 和寿

**講義の到達目標(ねらい)** 近年注目を集める地理情報システム(GIS)は、国土、地域、都市などの計画管理・行政支援、ビジネスをはじめ、多くの分野で活用されている。GISでは、地図(地域)情報と属性(主題)情報を一元的に取り扱い、多様な情報源から大量の空間データを取り込み、地図情報を主体としたデータベースを作成する。それを効率的に蓄積・検索・変換・解析して、可視化・地図出力やレポート作成などを行い、ユーザの意思決定を支援する。本講義では、GISを中心に、地理・空間情報の収集と空間解析の方法、ならびに地理学研究におけるGISの有効性について理解を深める。

**講義の内容／授業スケジュール** 第1回:GISの概要、第2～4回:地理情報、空間データの収集、第5～6回:GISの基本構成、発展史、第7～8回:GISデータの構造、第9～10回:空間参照と投影法、投影変換、第11～12回:実世界のモデル化、第13回:GISソフトウェア概要、第14～15回:空間データ分析の基礎(基本量測定、空間関係と空間検索、テーブル操作など)、第16回:空間データの作成、管理、第17回:オーバーレイ、バッファリング、第18～20回:点データの分析(点分布パターン、空間分割、密度サーフェス、最近隣距離法など)、第21～22回:空間的自己相関、空間補間、第23回:ラスタ演算、コスト・パス解析、第24回:ネットワーク分析、第25～26回:地形解析、第27～28回:リモートセンシング、第29～30回:GISと社会

**成績評価の方法** レポートと出席回数により総合的に評価します。

**教科書／テキスト** 教科書は指定しません。

**参考書** 村山祐司編『シリーズ人文地理学1 地理情報システム』(朝倉書店)3,800円

**その他** 講義資料の提供などで、YeStudyを活用します。

履修コード	032801
科目名	都市地理学
担当者名	橋詰 直道

**講義の到達目標(ねらい)** モノ・ヒト・情報の交換や文化の創造空間として変化しつつづけている現代都市の機能及び都市での生活、居住空間の抱える諸問題をさぐる。

**講義の内容／授業スケジュール** 次の項目を予定している。(1)(2)都市の概念(小テスト・都市とは何か)、(3-5)都市システム(順位規模法則・中心地理論・日本の都市システム)、(6-8)都市機能の分類(アメリカと日本の都市機能・因子生態研究)、(9-11)都市の内部構造(都市構造モデル・都心の構造)、(12-14)都市化と大都市圏(都市化と大都市圏・地価構造)(15)まとめ(中間試験)、(16)(17)大都市圏の居住空間(ライフステージと居住地移動)、(18)(19)郊外の居住空間(団地・郊外住宅地の開発)、(20)(21)都市と高齢化(団塊世代・少子高齢化社会と女性)(22)(23)都市の生活環境(犯罪・監視社会)(24)(25)都市住民の行動(生活時間と生活行動)、(26)(27)都市空間の認知(メンタルマップ・居住地選好)、(28)(29)都市環境の整備(都市計画・田園都市建設)、(30)まとめ(期末試験)

**履修上の留意点** 毎時間出席をとる(開始後15分以上の遅刻は欠席となる)。

**成績評価の方法** 中間試験(7月最終授業日)及び学年末試験の両方を受験し、かつ授業への出席日数(2/3以上)と試験(課題を含む)の成績が基準以上であるかどうかなどを総合的に評価する。

**教科書／テキスト** 特に定めない。

**参考書** 高橋伸夫・菅野峰明・村山祐司・伊藤悟『新しい都市地理学』(東洋書林)2,500円、その他の参考書や論文は授業の中で紹介する。

**その他** 講義は、配布プリントとパワーポイントを利用して行う。課題や小テストも実施する。

履修コード	040601
科目名	土壌地理学
担当者名	漆原 和子

講義の到達目標(ねらい)	私たちの最も身近にあり、その恩恵に浴している土壌、植生の分布様式のもつ規則性を理解しよう。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期では、土壌の定義と生成因子、生成作用について述べる。後期では、一定の気候下ではその環境に適応した特色ある植生が分布し、熟成した土壌が生成されることについて学ぶ。世界の気候帯、植生帯、土壌帯の分布様式について考える。さらに世界における各種の生態型や土壌型ごとに営まれている生活、農業、作物について考える。母材が火山灰の時、日本では黒ボク土が生成されるが、なかなか利用しにくい土壌である。どうして日本にしかないのか、どうして困った土なのかも説明する。 1. 土壌の定義 2. 各種土壌母材との土壌生成作用 3. 土の中では何が起きているか。 4. どうして土壌があるところで農業ができるのだろうか。 5. 世界の土壌はどんな性格か、どんな自然条件のところに生成されるのか。 6. 特殊な母材の土壌 7. 人間が土壌の扱いを間違えると、何がおこるのか。
履修上の留意点	この授業は他の地理学の分野でほとんど耳にすることのない専門用語が使われる。しだがつて、欠席すると理解できなくなり、容易についてこられなくなる。毎回出席すること。また、復習をしてもらうことが望ましい。
成績評価の方法	毎回出席をとる。講義日数の2/3以上出席すること。出席とテストで評価。
教科書／テキスト	永塚鎮男・漆原和子訳『世界の土壌』2004年刊(古今書院)3,600円

履修コード	034201
科目名	日本地誌
担当者名	橋詰 直道

講義の到達目標(ねらい)	日本の諸地域はどのような特色を有し、近年どのように変容してきたか。この地域変容に関する最近の研究事例を紹介しながら、日本列島の地域的特色とその変容過程を明らかにする。
講義の内容／ 授業スケジュール	次の項目を予定している。(1)(2)はじめに(小テスト・地図と地域区分)、(3-5)日本の自然環境(日本の気候景観・日本の地下資源・水資源)、(6-8)生活と文化(日本の風土・気候と住居・文化の地域差)、(9-11)都市と村落(日本の都市・集落地と集落移動)、(12-14)日本の山村地域(林業地域・限界集落・山村振興)、(15)まとめ(中間試験)、(16-18)農業地域1(日本の農業・近郊農業・輸送園芸地域)、(19-21)農業地域2(茶業地域・果樹・花卉栽培地域)、(22)(23)産業地域(工業地帯・地場産業地域)、(24)(25)開発と環境保全(国土開発・環境保全)、(26)(27)余暇地域(観光リゾート・グリーンツーリズム)、(28)(29)災害(気象災害・地震災害他)、(30)まとめ(期末試験)
履修上の留意点	毎時間出席をとる(開始後15分以上の遅刻は欠席)。
成績評価の方法	中間試験(7月最終授業日)及び学年末試験の両方を受験し、かつ授業への出席日数(>2/3以上)と試験(課題や小テストを含む)の成績が基準以上であるかどうかなどを総合的に評価する。
教科書／テキスト	特に定めない。
参考書	参考書や関連する論文は授業で紹介する。地図帳を毎回持参すること。
その他	講義は、配布プリントとパワーポイントを利用して行う。課題や小テストも実施する。

履修コード	032601
科目名	文化生態学
担当者名	中俣 均

講義の到達目標(ねらい)	前期においては、いわゆる「伝統的」な文化地理学の一分野として「文化生態学」を位置づけ、その内実を説明する。特に日本の文化地理学における主流派としての文化生態学という側面を強調したい。また後期においては、前期の講義内容を踏まえたうえで、近年のいわゆるカルチュラルターンを経た新しい文化地理学の内容について、かいつまんで説明する。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期：①はじめに ②近代地理学の発生 ③④環境決定論-その功罪 ⑤関係論から景観論へ ⑥⑦サウアの文化景観論について ⑧Wagner/Mikesellの「5つのテーマ」 ⑨文化生態学の成立 ⑩照葉樹林文化論について ⑪⑫⑬日本列島の文化史 ⑭千葉徳爾の文化生態学 ⑮まとめ 後期：①はじめに ②③景観概念の再考・拡張・変化 ④主観の地理学へ ⑤⑥⑦風水論 ⑧⑨場所イメージ論 ⑩競われる空間の意味 ⑪⑫伝統文化の創造と景観 ⑬⑭文化の空間論的転回 ⑮総まとめ
準備学習	特に必要とはしない。
履修上の留意点	教室内での私語は厳に慎まれたい。
成績評価の方法	前期および後期それぞれの授業最終回に、筆記試験を行ない、基本的にその合計点をもとに本科目の成績を評価する。筆記試験においては、指定された参考書および各自のノートの持ち込みは可とするので、普段から講義内容を整理したのノートを作成しておく心がけてほしい。なお、時に授業への出席を確認し、その情報も成績評価の一部として利用することもありうるので、十分注意されたい。
教科書／テキスト	講義開始時に詳しく指示する。基本的に特定の教科書の採用は予定していない。
参考書	高橋伸夫他(1995)：『文化地理学入門』(東洋書林)¥2575 中川正・森正人・神田孝治(2006)：『文化地理学ガイダンス』(ナカニシヤ出版)¥2520
その他	基本的に講義によって授業を進める。その際、出席者へのみ毎回の講義内容に関わるプリントを配布して、それに基づいて講義を進める。ただし、なるべく教員側からの一方的な情報提供に終わらないような工夫をしたいと考えている。

履修コード	033101
科目名	文化地理学
担当者名	小田 匡保

講義の到達目標(ねらい)	文化現象の中でも特に宗教を取り上げ、日本の伝統的宗教や信仰習俗についての基礎知識の確認とともに、地理学的にどのような研究が可能なかが理解できるようにする。
講義の内容／ 授業スケジュール	文化地理学・宗教地理学の概要を説明した後、宗教地理学研究の主要テーマである宗教分布、信仰圏、宗教集落(門前町)、巡礼、墓地・火葬場、村落の宗教組織について述べていく。事例は主として日本の宗教である。 1. 講義内容等の概要説明 2. 文化地理学の概要 3～4. 宗教地理学の概要 5～12. 宗教分布 13～17. 信仰圏(間に前期試験とその解説をはさむ) 18～19. 宗教集落・宗教都市(門前町) 20～23. 巡礼・社寺参詣 24～27. 墓地・火葬場 28. 村落の宗教組織 29～30. 後期試験とその解説
準備学習	授業の後、ノートを見直して、話の筋をつかむことを薦める。
成績評価の方法	成績評価は、試験(前期・後期の2回。持込不可)の点数が基本で、これに夏休みの調査レポートの点数を加味して行なう。出席回数が半分に達しない場合や、夏休みレポートが受理されない場合は、単位は認定できない。
教科書／テキスト	使用しないが、図表類のプリントを授業で配布する。
参考書	松井圭介『日本の宗教空間』(古今書院)など。その他、授業内容に応じて、授業中に紹介する。

履修コード	034601
科目名	ヨーロッパ地誌
担当者名	岩間 信之

講義の到達目標(ねらい)	本講では、多種多様な歴史や文化を有し、多くの問題を抱えながらも大きく生まれ変わろうとしているヨーロッパについて解説する。なかでも都市問題、商業問題に着目する。講義はパワーポイントを使用しながら進める。また、卒論執筆を念頭におき、読図や資料検索(英語)、都市・商業問題に関する調査方法についてもあわせて解説する。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期：ヨーロッパ各国の地誌を、実例を用いながら解説する。 後期：ヨーロッパ諸国が抱える都市問題やEU統合に伴う経済活動の変化について解説する。
履修上の留意点	地誌の講義であるため、地図帳を持参すること。また、講義毎に小テストを実施するので、積極的に参加すること。
成績評価の方法	成績は出席30%、小テスト20%、定期テスト50%で評価する。定期試験は、事前に提示しておいた課題についての調査結果を記述するというスタイルをとる。
参考書	ジョーダン著・山本・石井訳『ヨーロッパ文化』(大明堂)5,160円

履修コード	038801
科目名	リモートセンシング
担当者名	田中 靖

講義の到達目標(ねらい)	リモートセンシングとは、離れた所から非接触で対象物を同定あるいは計測し、その性質を分析する技術の総称である。このうち、空中写真の判読や衛星画像解析から地理学的に意味のある空間データを抽出する研究は、リモートセンシング研究の最も重要な分野である。本講義では、デジタル化された空中写真画像や人工衛星画像データを用いて、画像解析の基礎と数理的な環境の捉え方を身に付けることを目標とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回～第3回：リモートセンシング入門 第4回～第6回：電磁波 第7回～第9回：基本的な画像合成と画像分類による土地利用図の作成 第10回～第14回：データ構造と画像処理の基礎 第15回～第17回：植生指数と植生指数分布図の作成 第18回～第23回：地表面温度分布図の作成 第24回～第26回：総合演習 第27回～第30回：発表・まとめ
履修上の留意点	数学・物理・コンピュータといった理科系の分野に苦手意識のある学生でも理解できるように配慮しているので、興味を持つ学生は是非受講してほしい。ただし、積み上げが大切な科目なので出席は重視する。
成績評価の方法	提出課題の質と授業内で数回行う小テストにより評価する。定期試験は実施しない。
教科書／テキスト	田中邦一ほか 『新版 フォトショップによる衛星画像解析の基礎』(古今書院)4,200円(税別)
参考書	適宜紹介する。
その他	授業はPC教場での実習を中心に行う。実習にはPC教場に導入されているArcGIS(ESRI)、Photoshop(Adobe)、Borland C++ Compilerなどを用いる。これらは自習室や地理学科のコンピュータ室でも使うことができる。
関連リンク	<a href="http://www.int2.int.komazawa-u.ac.jp/~yasushi/remosen/">http://www.int2.int.komazawa-u.ac.jp/~yasushi/remosen/</a>



履修コード	033001
科目名	歴史地理学
担当者名	小田 匡保

講義の到達目標(ねらい)	歴史時代の事柄も地理学的に扱えることを理解できるようにする。歴史学科学生には、歴史学とは違う地理学的なものの方に見慣れてほしい。
講義の内容／授業スケジュール	主に日本の村落と都市の歴史地理について講義を行なう。歴史地理学の範囲は非常に広いので、「浅く広く」を基本に授業を進める。 1. 講義内容等の概要説明 2～3. 歴史地理学の概要 4～15. 歴史時代の村落と地方行政区画 (先史から現代まで、間に前期試験とその解説をはさむ) 16～23. 歴史時代の都市(古代が主、近世も1回) 24. 歴史地理学の資料 25. 歴史的町並み・景観保存 26～28. 後期試験とその解説、大学周辺のミニ巡検
準備学習	授業の後、ノートを見直して、話の筋をつかむことを薦める。
履修上の留意点	この科目は、地理学科・歴史学科両方の専門科目であるが、教員は地理学の間人であるので、地理学の見方や内容が中心になる。しかし、高校の地理を履修していなければ理解できない内容ではない。むしろ、ある程度の日本史の知識を持っていることが望まれる。ただし、史料講読ではないので、古文書が読める必要はない。
成績評価の方法	成績評価は、試験(前期・後期の2回。持込不可)の点数が基本で、これに夏休みの調査レポートの点数を加味して行なう。出席回数が半分に達しない場合や、夏休みレポートが受理されない場合は、単位は認定できない。
教科書／テキスト	使用しないが、図表類のプリントを授業で配布する。
参考書	授業中に紹介する。

履修コード	035201
科目名	歴史地理学実習
担当者名	小田 匡保

講義の到達目標(ねらい)	歴史地理学の研究では、古い時代の史料を扱うことが必要になる。この科目では、歴史地理学の史料(あるいは研究対象)として利用されることの多い古地図に親しむことを目的とする。
講義の内容／授業スケジュール	教科書として挙げた『江戸時代古地図をめぐる』には、全部で95枚の古地図が掲載されている。これらの古地図を、記載文字・地図表現などを頼りに、履修者が分担して読んでいく。その作業の中で、くずし字や古文書特有の表現に慣れる。あわせて、古地図に関する学習も行なう。大学周辺のミニ巡検か博物館の古地図展示見学も1回実施したい。 第1回：オリエンテーション、第2回：古地図概説、第3回～：履修者の発表
準備学習	自分の発表の前に準備するのはもちろんだが、他の人の発表の場合も、事前に古地図を眺めておくとよい。
履修上の留意点	旧漢字の知識があることが望ましい。
成績評価の方法	成績評価は、出席状況・発表内容とレポートで行なう。無断欠席が3回になった段階で、単位不要と判断する。
教科書／テキスト	山下和正『江戸時代古地図をめぐる』(NTT出版)、本体1,650円
参考書	林英夫監修『増訂近世古文書解読字典』(柏書房)、本体2,524円
その他	教科書が品切になって入手できない場合は、別の授業内容を考える。